



岐阜大学夏期短期留学 サマースクール2013



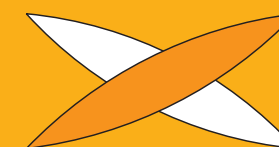
GRIFFITH UNIV.



SEOUL NATIONAL UNIV. OF
SCIENCE & TECHNOLOGY



MOKPO UNIV.



GIFU UNIV.

岐阜大学
GIFU UNIVERSITY

Gifu University International Student Center - Gifu University International Student Center

Summer School 2013 Report Contents

巻頭言
挑戦する心

夏期短期留学（派遣）

開催一覧	3
実施協定大学の協定内容等	3
グリフィス大学	5
ソウル科学技術大学	22
木浦大学	31
参加者アンケート	44
編集後記	56

本年度の夏期短期留学サマースクールは、グリフィス大学（オーストラリア：5週間プログラム）に11名、ソウル科学技術大学（韓国：2週間プログラム）に5名、木浦大学（韓国：2週間プログラム）に1名、合わせて17名の学生が参加しました。

サマースクール（派遣）で行く学生および受入で来る学生の数は、ここ数年間は毎年20名前後で推移しています。留学生センター創設の平成8年からの合計では、派遣は273名、受入が340名になりました。

学生時代に海外経験を積むことは極めて有意義なことは学生も理解していると思われませんが、日本全体で見ると海外に出る学生数は減少しており、文科省としても2020年までに倍増に近い12万人にまで海外留学生数を増やそうとしています。減少に歯止めを掛け増加に転ずるためには、「学生の動機付け（モチベーション）」が重要であり、年々変わり行く「新入生の思い」を汲み取り、留学に結びつけていくには大変な労力（エネルギー）を要します。

今回の体験談の中にも留学ガイダンスに始まり、英語研修を含む留学前の事前研修などの留学生センターや留学生支援室の支援が「非常に役にたった」、「感謝しています」との声があるのは嬉しいことであり、「留学したい学生」（動機をもった学生）が円滑に「渡航」まで結びついた例として本誌を読んでいただければ幸いです。

夏休みを利用したサマースクール（派遣）であり、2週間あるいは5週間の短期ではありますが、「涙あり、感動あり」の体験談が綴られています。到着当初の寂しさ、話ができないことの悩み、ホストファミリーの言葉に支えられ、日本人の少ないクラスで

話さざるを得ない状況から友達が増えたこと、そうした仲間と「よく遊び」、結果として言葉を覚えたこと、最後の別れでは涙々となったことなど、読んでいる私も熱くなりました。「いい体験」をしているなと思います。

動機付けの議論はありますが、「とにかく行って見る」ことはシンプルに「いい体験」をしてることだと気付かされます。英語が話せなかったこと、話すにも「自国の文化」を話せないと話題が続かなかったこと、それ以上に「そんな個人のダメさ加減」を覆う現地の「人の温もり」を知ったことに感動したこと、「伝えたいことがある」を体験したこと、が次にまた海外に出るときの大きな「動機付け」になるようにも思いました。

今回は派遣留学生の体験談ですが、海外からの受入留学生についても同様の体験談を合わせて読んでいただけると、昨今の「若者の思い」が見えてきます。

留学を経験した学生が、帰国後体験談を書くに当たり、「多くの学生に留学を進めたい」との意見を付しており、この冊子が来年度のサマースクール参加への動機付けになってくれることを祈っています。

なお、今回は御多忙の中、小見山 章国際戦略本部長（岐大理事）にも、「挑戦する心」と題し御執筆いただきました。



「挑戦する心」

岐阜大学理事（学術研究・情報・国際戦略担当）副学長 岐阜大学国際戦略本部長 小見山 章

岐阜大学が今年度実施したサマースクール(派遣)では、学術交流協定を持つグリフィス大学(豪)へ11名、ソウル科学技術大学へ5名、木浦大学へ1名の参加があり、全員が稔りある成果を上げて無事帰国しました。留学生センターや留学生支援室、国際戦略本部、指導教員など、多くの方の協力の下にこれらの短期留学が実施できました。参加した学生の体験の詳細を本誌に書きましたのでご覧下さい。

留学に関する「受け入れ」と「派遣」のバランスには、日本共通の傾向があるようです。すなわち、諸外国から多数の留学生を日本が受け入れているのに、日本からは相対的に少数の大学生しか留学派遣していないという現象が生じています。これにはいろいろな事情が重なっていると思われれます。例えば、岐阜大学でも「受け入れ」が相対的に多いのは、とくにアジアや近東地域から日本の科学力と技術力を学びに来る留学生が多いのが一つの理由であると思います。しかし、大学は、日本人学生が派遣されて留学する数がなぜ少ないのかを、よく分析しておく必要があります。本書の報告にある学生諸君の体験

は、これを分析する上で大いに参考になります。

さて、今回サマースクールに参加した17名の学生は、いずれもが「挑戦する

心」をもって海外に眼を向けました。未知の世界に身を置いて自分を磨き高めていく、そんな行為が自分を確かめ魅力的な人間にしてくれたことと思います。長い人生の中で、留学から得られるものは大変大きいのです。

私が勉強している生物学においても、もしダーウィンがビーグル号に乗らなかったら、もしウォレスが南米やマレー諸島に行かなかったら、生物の進化論は今のようではなかったでしょう。彼らをそこに行かせた動機は様々だったかも知れません。しかし、未知のものに「挑戦する心」が彼らを動かして新境地をもたらしたことは確かだと思います。

本書を参考にして、たくさんの方がサマースクールなど海外学習に挑戦されることを期待します。



夏期短期留学（派遣）

2013年度サマースクール（派遣）開催一覧

大 学 名	国 名	日 程	参加人数	宿 泊
グリフィス大学	オーストラリア	8月14日（水）～ 9月22日（日） 5週間	11人	ホームステイ
ソウル科学技術大学	韓 国	8月12日（月）～ 8月21日（水） 2週間	5人	大学寮
木浦大学	韓 国	7月31日（水）～ 8月10日（土） 2週間	1人	大学寮

サマースクール実施協定大学の協定内容等

大学名（英文名）	初回協定締結日	協定内容	交換可能学生数	サマースクール 初回参加年
グリフィス大学 GRIFFITH UNIVESITY	1995年3月3日	学生交流（交換留学・ 授業料等免除） 研究者交流 情報交換等	4人	2002年8月
ソウル科学技術大学 SEOUL NATIONAL UNIVERSITY OF SCIENCE & TECHNOLOGY	1992年3月19日	学生交流（交換留学・ 授業料等免除） 研究者交流 情報交換等	3人	2008年8月
木浦大学 MOKPO NATIONAL UNIVERSITY	2008年2月26日	学生交流（交換留学・ 授業料等免除） 研究者交流 情報交換等	3人	2009年8月

グリフィス大学

●オーストラリア グリフィス大学参加者名簿（合計11人）

日程：2013年8月14日（水）～9月22日（日） 5週間プログラム

	氏 名	学 部	学年
1	石 垣 彩	応用生物科学部応用生命科学課程	3
2	伊與田 里 奈	応用生物科学部応用生命科学課程	3
3	中 島 わかほ	応用生物科学部応用生命科学課程	3
4	奥 村 達 也	工学部応用情報学科	2
5	上 條 由 貴	応用生物科学部応用生命科学課程	2
6	市 川 真 帆	教育学部学校教育教員養成課程数学教育講座	1
7	村 山 果 甫	教育学部学校教育教員養成課程社会教育講座	1
8	山 内 千 礼	教育学部学校教育教員養成課程家政教育講座	1
9	野々垣 陽 介	医学部医学科	1
10	雄 山 裕 亮	医学部医学科	1
11	市 川 浩 子	工学部化学・生命工学科	1



事前研修について

今年のサマースクールの事前研修は毎週月曜日、水曜日、木曜日と週3回行われ、15回ありました。内容はスピーキングが中心で、授業はすべて英語で行われました。自己紹介や地元の伝統行事の紹介などスピーキングの練習のほかに、オーストラリアのニュース番組を見て聞き取る練習をしたりとさまざまな方法で英語を勉強しました。最後の授業ではオーストラリアから岐大に留学している留学生に、オーストラリアの豆知識やオーストラリアで気を付けることなどを教えてもらいました。

オーストラリアに行くとき自己紹介はもちろん日本はどういうところなのか聞かれることもあり、この研修で学んだことを生かす機会が多くありました。

普段は英語を話す機会など全くありませんが、オーストラリアに行くとき英語しか話しません。いきなり、そのような状況に置かれてもおそらく何も話せず、委縮するばかりだったと思います。オーストラリアに行きつてすぐは、やはりほとんど英語は話せませんが、この研修のおかげで必要なことは学んでおけたと思います。オーストラリアの発音が習った発音と違ったり、実際は学んだこととは違ったりということもありましたが、一緒に行くメン

バーとも顔を合わせることもでき、この研修に参加してよかったと思います。参加するかしないかは自由ですが、私は参加したほうが良いと思います。

（石垣 彩）

事前研修について述べたいと思います。今年には週に3回、16:30～18:30の2時間の研修を5週間行いました。講師役として留学経験のある日本人学生2名と留学生2名の計4名が協力してくださいました。研修は講義形式ではなくグループワークでスピーキングとリスニングを中心に、その日にあった出来事の報告や道案内などの実用的な会話の練習をしました。また、普段の授業では教えてもらうことの出来ない会話特有の表現や似たような意味を持つ動詞の使い分けについても学ぶことができました。実際にオーストラリアで学んだことを活かすことができ、5週間と短い期間ではありましたが内容の濃い充実した研修になったと思います。

（市川 浩司）



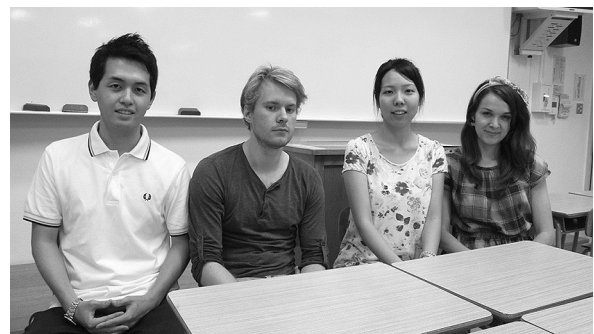
事前研修の講師



グループに分かれて研修



事前研修 教室の様子



事前研修講師

（左から）武田憲人さん

エリクソン ダニエル エリックさん（スウェーデン）

松尾有美さん

ドレジャロヴァー エヴァさん（チェコ）

授業について

グリフィス大学での授業について

私は2A（8月19日～9月6日の3週間）と3A（9月8日～9月20日の2週間）の2クラスに在籍しました。オーストラリアに着いた次の日にクラス分けのテストがありました。テストはWritingとListening & Speakingで、Listening & Speakingでは教室の外に呼ばれて、先生と一対一で話すというものでした。また、週に1度金曜日にはその週に習ったことの小テスト、5週間の最後にクラス替えなどを含む大きなテスト（私たちは5週間のうちの途中から参加したので3週目にありました）がありました。この5週目にあるテストは先に来ている長期間の留学生達には重要なもので、テスト前になるとみんなテストに向けて懸命に勉強していました。

次の週の月曜日から授業が始まりました。クラスは2人の先生が曜日ごとに教えてくださり、クラスメイトはブラジル、中国、サウジアラビアなど色々な国から私達と同じように英語を学びに来ていました。特にブラジル、中国からの人達が多く、国から支援を受けて来ていると言うことでした。同じクラスに他の国から来た留学生がいるということで、刺激を受けた部分があると思います。私のクラスでは「同じ言語を話す人同士は隣に座ってはダメ」というルールがあったので、隣の人とペアになって活動するペア活動などで積極的に関わる事が出来ました。

授業は基本的に教科書に沿って行われ、内容自体



は中高で習うような文法を主にしていて、難しいものではありませんでした。ただ、授業全てが英語で行われるので慣れるまでは戸惑うこともありました。でも、そういったときには必ず先生や隣のクラスメイトなどが助けてくれました。分からない事があっても黙って分からないままでは恥ずかしがらず聞くことが大切だと思いました。授業内容が難しいものではないので、ペア活動やグループ活動などで自分の意見を伝える事、授業中の先生の問い、つぶやきに答える事、そうやって意識して授業を受ける事が大切だと思います。全てに言える事ですが、受け身では学べる事が少ないので、自分から進んで行動することが大切だと思いました。

宿題は平日は毎日あり、A4のプリント1枚裏表 + Readingなどでした。これも難しい物ではなく、夕食前に終わらせて、ホストファミリーに見てもらおうという人が多かったです。

私が授業で印象に残ったことは、私達日本人は絶対的にSpeakingに弱いということです。他の国からの留学生と比べた時に、ReadingやWritingは日本人の方が出来るように感じるのに、発音や話す事ができていなかったです。日本の教育のせいかもしれませんが、実際に海外に出た時にもっとも必要な能力なので、今後「話せるように」英語を学びたいです。

授業を通して一番の思い出は、2Aのクラス最後の週にグループ活動で行ったプロジェクトです。私のクラスのプロジェクトは、1週間QLDを旅行する計画を立てるというものでした。今実際に私達が



滞在している場所で、あそこに行ってみて楽しかったから計画に入れよう、ガイドブックを見てここが楽しそう、などとグループで話し合うのが楽しかったです。

他の日本の大学から来た学生たちは2、3週間で帰っていくが多かったですが、5週間だからこそクラス替えを経験出来たし、なじむことが出来たと思います。けれども、5週間はあっという間だったし、もっと長くいたかったです。年単位で来ている他の留学生の人達がうらやましかったです。

この5週間のサマースクールを通して、毎日大学に通って授業を受けるということは大きかったと思います。生活の全てが英語ということはもちろん、英語で英語を学ぶという機会も貴重であると思います。たくさん遊んだけれど、それ以上に学ぶ事が多い5週間でした。

（市川 真帆）

■ 私たちはGELIと言うグリフィス大学付属の語学学校で授業を受けました。

まず初めに、私たちはクラス分けのテストを受けました。reading・writing・speakingの3つのテストを受け、そのテストの出来具合によってクラスが分けられました。GE4～GE1までレベルが分けられており、私はGE3のクラスに配属されました。

授業内容は、教科書に沿ったgrammarがメインに行われ、あとはspeaking・writing・reading・listeningがありました。grammarやreadingはそこまで難しくありませんでしたが、他は少し難しかったです。私はspeakingが一番苦手で、自分の意見を発表する際や外国人と会話する際にとっても困りました。三週間目にはもう一度クラス分けテストを受け、さらに今まで習ったことを生かしてプレゼン発表を行いました。宿題もほぼ毎日あり、課題本も出されました。小テストが毎週金曜日にあるので気が抜けませんでした。

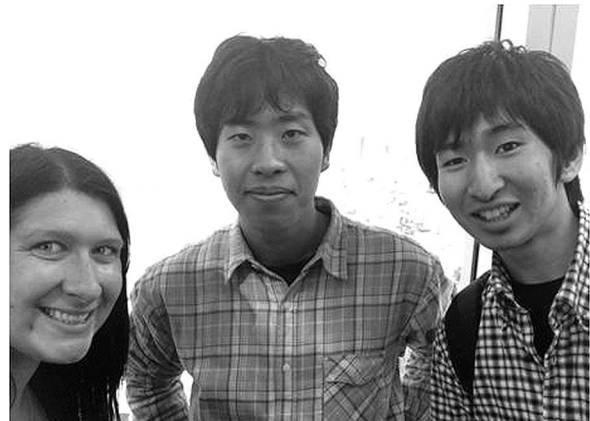
授業は午前中だけなので、午後は自分の時間がじっくり作れました。また、休み時間が30分と長かったのでクラスメイトとお喋りをしていました。ブラジル、サウジアラビア、中国などから留学生が来ており、それぞれの国の文化や習慣について話し合うことができました。クラス全員と友達になることができて良かったです。慣れないうちは色々困りましたが、次第に英語も話せるようになり、コミュニケー

ション能力が上がった気がしました。この5週間はとても楽しかったです。

（伊與田 里奈）

■ オーストラリアに到着した翌日にはクラスを決めるためのプレースメントテストを受けました。テストの内容は主にライティングとスピーキングで、ライティングでは分量や文法などが問われ、スピーキングでは一対一で先生と話さなければなりません。自分のレベルにあった中でもなるべく上のクラスに入った方が英語はより上達するので、日本にいる間にサマースクール事前語学研修などを大いに利用して、もっと英語に慣れておけば良かったと思いました。

授業では、文法・リーディング・リスニング・英作・ペアワーク・ディスカッションなどを学習します。文法・リーディング・リスニングは、日本の授業のように進んでいくのですが、日本の授業と違うのは、先生にあてられる前に学生が自分から積極的にどんどん発言するところです。だから、少しでも分からないところがあったら、すぐに質問した方が良いです。英作文は、学習した文法などを用いて100字ぐらいの文章を書きます。ペアワークは、隣の人と教科書などに書かれていることについて会話などをします。クラスには、韓国や中国、ブラジル、台湾、アフリカなどのいろんな国の人がいました。言いたいことを英語でスムーズに伝えることは難しいのですが、みんな英語を学びに来ているので、真摯に相手の言っていることを聞いたり、間違いを指摘しあったりすることができる雰囲気なので、ためらうことなく話しかけていけます。ディスカッションは、ある議題について仲間と話し合っ



私のホストファミリーは、ファザー、マザーと7歳と4歳の女の子、そして小型犬が1匹だった。最初の2日間は日本人の女の子が一緒だったこともあり、英語にまだ不慣れな中でも家や学校の様子を知ることができて安心した。家は閑静な住宅街にあり、学校から徒歩30分ほどのところにあった。家族が多趣味だったので家にはいろいろな遊び道具があり、通学的手段として自転車やスクーター（キックボード）を使わせてもらうこともあった。夕飯の片づけは私の仕事になっていたけれど、他は特にルールというルールはなく快適な環境で暮らすことができた。

大学から帰ってくると、夕飯までの時間を子供たちと一緒に遊んで過ごしていた。子供たちが使う単語はわりと簡単なものが多く、さらに私が理解していないときはジェスチャーを付けてくれたので、両親よりもわかりやすいことが多かった。また、休日のうちどちらか一日は家族と過ごしていた。子ども



の誕生日会が家で開かれたり、ハイキング、ビーチ、ディナーに連れて行ってもらったり、さらに私の友達を招いてホームパーティーを開いてくれることもあった。とても楽しい家族で、毎日毎日濃い一日だったと思う。来年は日本に旅行する予定だと言っていたので、そのときに日本を案内できたらいいなと思っている。

（中島 わかほ）

オーストラリアで5週間生活するうえで重要な存在であるホストファミリーに、私はとても恵まれていたと思います。私のホームステイ先はグリフィス大学から徒歩10分の集合住宅地の中にあり、基本的には65歳のホストマザーとの2人暮らしでしたが、週末を含め毎週3、4日は73歳のホストマザーの彼氏が家に来て3人で過ごしました。マザーは毎週金曜日に介護施設へボランティアに行くこと以外は仕事をしておらず、毎日3回の食事の準備・片づけ、掃除、洗濯など身の回りのことをすべてやってくれました。オーストラリアに着くまではシャワーの時間やドライヤー、洗濯、食事などに対して不安がたくさんありましたが、門限が18時であること以外はルールもなく、ホストマザーとその彼氏は優しい人で、食事もおいしくて、ホームステイ1日目にして居心地の良さを感じたことを覚えています。

まず平日について書きたいと思います。朝食は毎日色とりどりのフルーツとシリアルを用意してくれ、昼食にはサンドイッチ、ヨーグルト、フルーツ、授業の休み時間のためのお菓子（クッキーやグミ、マザーの手作りケーキなど）を持たせてくれました。学校から帰ると毎日、“How was your day?”とその日あったことを聞いてくれ、私の発音が悪くなかなか伝わらないことや、ぱっと英語が出てこず口ごもってしまうこともありましたが、常に笑顔で熱心に理解しようとしてくれました。1日の出来事を伝えるため、学校からの帰り道に電子辞書を片手に話す内容を考え、通りすがりの学生に二度見されたことも良い思い出です。私が学校から早く帰った日には一緒に花の水やりをしたり、3人で近くの公園へ散歩に行ったりし、また宿題を見てもらい発音を教えてもらったこともありました。夕食はパスタやローストチキン、カレーなど毎晩おいしくてバランスの良いもので、時にはお好み焼きやお味噌汁を



作ってくれました。そして食べる前には必ず一緒に「いただきます」と言って食べました。マザーは日本語を習ったことがあるそうで、他にも「乾杯」や「どうもありがとうございます」「どうぞ」「おはようございます」などをよく使って楽しませてくれました。夕食後にはデザートを食べながら毎晩寝るまで一緒にテレビを見て、私が理解できていないような顔をすると、CM中にわかりやすい単語を使って説明してくれることも多々ありました。テレビを見ることはリスニングの練習にはなりましたが、あまり話せなかったので少し残念でした。

次に休日について書きます。休日の朝食は野菜がたくさん入ったオムレット、トースト、手作り野菜ジュースがほとんどで、必ず庭で食べました。鳥の鳴き声がきこえる中、真っ青な空を眺め、3人で「いただきます」と言って朝食をとることが私にとって何よりもの幸せでした。私が友達と遊びに行くときは前もってバスの時刻を調べてくれたり、乗り換えのバス停まで車で送迎してくれたり、近くのバス停の場合は2人が一緒に歩いてついて来てくれたり、毎回お弁当を持たせてくれたりしました。また私の予定がない日にはピクニック、カジノ、バーレー・ヘッズ、フェスティバル、ショッピングセンター、夜にはスプリングコンサート、クラブ、ディナーなどさまざまなところに連れて行ってくれ、3人で出掛けなかった休日はないと思います。ドイツ人であるホストマザーと一緒にドイツのアーモンドケーキを作ったこともありました。クラブとディナーにはマザーたちの友達夫婦も一緒に2回ずつ行き、初めて会ったときはほとんど聞き取れなかった友達夫婦の英語も会う回数が増えるたびに理解できるようになり、いろいろな話が聞けて楽しかったです。また私が話そうとするときには4人とも食事の手を止め熱心に聞き取ろうとしてくれました。



ホームステイをして1番よかったと思うことは毎日「おはよう」「いってらっしゃい」「おかえり」「おやすみ」と言ってくれる人がいるということです。日本でも当たり前かもしれませんが、現在1人暮らしをしている私にとっては本当に嬉しく毎回心が温まりました。マザーはたとえ朝電話がかかっても私が出かけるときには電話を中断し、“Have a nice day, bye”と玄関外まで送り出してくれ、金曜日にボランティアで早く家を出なければならない日は“Ohio gozaimas Chihiro! Have a nice day!”などといったメモを残してくれました。そのなかでも一番心に残っているのは最後の金曜日の朝に残してくれたもので、そこには“Hope you'll have a lovely day! Keep smiling! Life is wonderful!”とありました。その日の前夜、私はマザーたちと離れるのが寂しくて大泣きし心配させてしまいました。笑顔で学校最終日を過ごすように、と書いてくれたと思いますがこのメモによって朝から少し嬉し泣きをする事になりました（笑）。

ホームステイ中は体調を崩すこともなく問題も起きず、とにかく毎日が夢のようでした。しかし私の英語力が低かったため自分の思っていることやホストファミリーへの感謝を伝えられなかったこと、積極的に自分から話そうとしなかったこと、何もかもやってもらいあまりお手伝いをしなかったことなど後悔もあります。今回のホームステイでオーストラリアの生活や家族関係などに興味がわいたので専門の授業などで機会があれば勉強したいし、ホストファミリーとまた会える時にはもっともっと会話ができるように英語の勉強を続けていきたいです。

（山内 千礼）

Wetn Wildは、Movie Worldの隣にありました。日本でいう長島スパランドのプールのようなのですが、2つのとても目新しいダイナミックなスライダーがありました。余りに面白かったので、片方には4回も乗ってしまいました。

Dream Worldはジェットコースター等のアトラクションから、動物園、果てはプールというとても大きな遊園地でした。午前中は主にジェットコースター類に乗りました。ここにも、見たことのない類のジェットコースターがあり、楽しかったです。ジェットコースターでもスライダーでも、初めてのタイプのはスリルがあって最高でした。動物園ではトラやカンガルー、クロコダイル、コアラなどがいました。カンガルーは完全に野生が抜け落ちていて、人が近寄ろうが触ろうが何の抵抗もなく、とても拍子抜けし、かわいそうに思いました。というのも、私のホームステイ先は郊外にあり、周りが森だったため、野生のカンガルーを幾度か見たためです。野生のカンガルーは、私が一歩近づくだけですぐにこちらを向き警戒心をあらわにしました。私は20～30分ほどかけて7～8メートルほどまで近づいて写真を撮ったり、観察したりしました。あの時は本当に感動しました。カンガルーが餌を食べたり飛び跳ねたりするのはとても魅力的で、見ていて飽きませんでした。

次はグリフィス大学のアクティビティについて書いていこうと思います。

Gold Coast Showは、日本でいう祭りに近いものでした。多くの屋台が立ち並び、様々な絵や自動車、細工などが展示されていて、ステージでは色々なショーが行われていました。私と友達は屋台のゲームにはまってしまい、少し散財し、反省しました。あそこは魔の領域で強い引力を持っているので注意されました。

Byron Bayでは、まず灯台へと行きました。高台から見る景色はまさに絶景でした。そこに散歩道があり、海を見ながら、潮風に当たりながら、海辺へと降りていくのは、すがすがしいものでした。途中でオーストラリアの最東端という目印があり、そこで写真を撮りました。帰りに時間が無くなり、灯台のある場所まで駆け上るのは大変でした。その後は浜辺付近へ行き、お土産を買い、そして海に入りました。海水は冷たいは、波はとても激しいはで、まっとうな海水浴には程遠いものでしたが、楽しかった

です。

最後にブリスベンへの小旅行について書きたいと思います。立ち並ぶ屋台群を見て回ったり、橋を渡って中心街に行ったりしました。屋台では仮面を売っている店を発見しました。そこで、赤と金色の仮面に一目ぼれしました。値段を聞いたところ38ドルだったため、迷った末、最後に戻ってきてどうするか決めようと思いました。しかし、それが運のつき。予想以上に広いブリスベンを見て回るうちに集合時間になり、仮面は買えずじまい。ああ無情。結局これ以後仮面と巡り合うことはありませんでした。衝動買って大事だよね！と後悔してしまいました。また、その場でフルーツをしばってジュースを作ってもらえる店があったので、飲んでみました。さすが果汁100%。とてもおいしかったです。パッションフルーツの種が入っていてそれがまた何とも言えずおいしかったです。ブリスベンからの帰りには、マウント・ターサへ行きました。そこから見渡せるブリスベンの中心街やそのほかの町並みは言葉に言い表せないほど素晴らしいものでした。

総じて、最高の夏休みといっても過言ではなかったと思います。

サマースクールのオーストラリアの休日は遊び尽くすことをお勧めします。

（野々垣 陽介）

休日の過ごし方について、私は、8月は学校のアクティビティに参加したり、岐阜大学の友人たちとブリスベンの市内の見学に行ったり、ホストファミリーと出かけた。9月は自分たちでテーマパークに行ったり旅行に行ったりした。

アクティビティは、ワイルドパークと最南端の島のバイロンベイに行った。ワイルドパークはオーストラリアで見られる野生の動物が多く生息しており、興味深いものだった。また、人が歩く道に変わった鳥と一緒に歩いていて、蹴りそうになった。ワイルドパークだけでなく普通に町の中で多くの鳥がいて常に人のご飯を狙っていた。

バイロンの景色は最高だった。エメラルドグリーンに輝く波に私は感動した。また多くの店もありショッピングにもいいと思うのでバイロンは行くべきだと思う。

ホストファミリーにはビーチに連れて行ってもらったり、ドライブに行ったり、買い物に付き合っ

Gold Coast Show

8月30日～9月1日までの3日間、グリフィス大学の近くでお祭りがありました。観覧車などのアトラクションや日本の縁日にあるようなゲーム、地元の人々の絵、手芸、お菓子などの展示を楽しむことができ、夜には花火を見ることもできました。

Byron Bay tour

8月31日に学校主催のアクティビティに参加しました。Byron Bayとはオーストラリアで最も東に位置する場所であり、ウォーキングや海水浴、ショッピングを楽しみました。このアクティビティには日本人は少なく他の国の人が大半で、集合時間のルーズさには驚きました。

（山内 千礼）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ Summer School Program 総括 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

私がサマースクールに参加することを決めた目的として、語学力の向上と異文化交流がありました。高校生になってから語学や異文化に関して興味を持ち、インターネットなどを通じて個人的に勉強したりもしていました。ですが実際に英語を使ってコミュニケーションをとろうと思っても、自分の思っていることや言いたいことをうまく伝えることができずにもどかしく思っていました。そこで大学生になったら留学して語学力を向上させたいと思い参加しました。

5週間のステイを通してとてもたくさんのものを得ることができました。学校では年齢や国籍のばらばらなクラスメートと、授業内のグループワークや休憩時間を使ってそれぞれの国の文化の違いについて話することができ、今まで知らなかった外国について少しだけ知ることができました。また、お互いに自分の国の言語で簡単な文を教えあったりもしました。たとえ英語での表現の仕方がわからなかったとしても、伝えたいという気持ちがあれば伝えることができると思いました。

ホームステイでは食事や生活時間など日本との文化の違いについて驚くことが多々ありました。ホストマザーがとても優しい方で夜一緒に映画を見たり、写真を見せてもらったり、休日には買い物やピクニックなどに連れて行ってもらいました。

反省としては、自分が日本について知らないことが多かった点です。授業中に、先生がそれぞれの国の学生にオーストラリアと比較して同じかどうかをよく質問されましたが、自信を持って答えることができなかつたからです。

初めは長いと思っていた5週間も周りの方々のおかげでとても楽しく充実した時間を過ごすことができ、帰るころにはもっと長くステイしたいと口癖の

ように言うほどでした。今回出会った人々と話することでより一層言語や異文化についての関心が高まりました。

また、オーストラリアを好きになると同時に、今まで気付かなかった日本の良さについても再認識することもできました。語学以外の自分の専門についての勉強のモチベーションも上げることができました。もちろん語学の勉強も続けて長期で留学したいという目標もできました。この5週間は私にとってとても充実した、忘れることのできないものとなりました。

（市川 浩子）

今回私がこのサマースクールに参加したのは、中学2年の時に市の海外派遣事業でオーストラリアに行ったことがあり、その時ゴールドコーストがとてもいいところだと分かったので、今回もゴールドコーストだということを知り絶対ここにしよう決めました。また、このプログラムが5週間と最も長かったのも理由の一つです。英語が苦手なのでこのサマースクールを通して少しでも英語が得意になればと思っていました。

英語の学習という点では、グリフィス大学での授業はもちろん、それ以上に生活の全てが英語というのが勉強になりました。私のホストファミリーはハンガリー人でホストマザーが第二言語で英語を取得していたので、違う言語取得の難しさが分かる私と上手く話せなくても根気強く聞いてくれたのが大きかったと思います。ホストファミリー以外の人々、お店の店員さん、教会であった人……そういった人達と話す事が楽しかったです。みんなとてもフレンドリーに話してくれました。

海外で過ごすということがすごくよい経験になり

ました。学生でもないと、5週間のホームステイで大学に通うなんて出来る事ではないと思います。

私は自宅から出た事がなかったので家以外の場所で異文化にふれながら、5週間も過ごすというのは初めての経験でした。何もかもが新鮮ですごく濃密な5週間でした。行く前には長いと思っていた5週間が実際に過ごしてみたらあっという間で、とても楽しい時間でした。また機会があったらぜひ海外に行きたいです！

（市川 真帆）

私にとってこのサマースクールはとてもいい経験になりました。私は英語がとても苦手です。そのため、実際に外国に行き英語に直接触れることで少しでもできるようになりたいと思い、このプログラムに参加しました。留学生支援室や留学生センター、生協の皆さんのご尽力のおかげで留学しやすく、とても感謝しています。実際、手続きなどの大部分をやっていただき、私たち自身が行うことは少なく簡単でした。

また、事前研修でスピーキングの練習をしたり、海外についての知識を教えてもらったため、いきなり留学するよりも安心して渡航できました。

今回のプログラムでは午前中に授業があり、午後からは自由でした。授業はサウジアラビア人や中国人、ブラジル人など様々な国のの人たちと一緒に受けました。授業でクラスの人と会話することがあり、お互いに質問しあいましたが、文化が違ったり、異なる環境で育ってきたため、簡単な質問でも様々な答えが返ってきて驚くことがたくさんありました。休憩時にはクラスメイトとお互いの国のあいさつなどを教えあって仲良くなることができましたと思います。

また、文法はわかってもスピーキングはあまりできないので最初は全然話すことができず、聞き取ることも曖昧にしか理解できませんでした。しかし、1週間か2週間経つと、相手の言いたいことが結構わかるようになってきて、自分の言いたいことも片言ですが伝えられるようになってきました。ほかの国の人たちは、文法はわかっているのに話すことは上手で、私たちとは正反対でした。日本では授業で話す機会などないのが原因で、もっとスピーキングの勉強が必要だと思いました。

午後や休日はホストファミリーにビーチに連れて



行ってもらったり、友達と買い物に行ったり遊びに行ったりしました。最初、ホストファミリーの言っていることがよくわからなく、何度も聞き返したり、自分の言いたいことをうまく伝えられなかったりして辛いこともありましたが、毎日が充実していて、とても楽しく過ごすことができました。さらに、ホストファミリーがうまく英語を話せない私とも根気よく会話をしてくれたため英語力も上がりました。

今回のサマースクールは、私にとっても大きな影響を与えたと思います。私はずっと外国に行ってみたいと思っていましたが、このプログラムに参加して異文化に触れあうことができ、今度はほかの国にも行ってみたいと思うようになりました。また、私はあまり新しいことに挑戦することは得意ではありません。そのため、サマースクールに参加することは私にとって、とても大きな挑戦でした。その結果、たくさんの方々に出会い、たくさんのことを学ぶことができました。このような経験はなかなかできないと思います。最後に、ただ漠然と参加するだけでは成長することはできないということも感じました。自分から積極的に学ぼうとしなければ結局何も変わらないことを学びました。これからは、この経験を生かして様々なことに挑戦していきたいです。

（石垣 彩）

今回サマースクールに参加して、本来の目的である英語以外にも、たくさんを学ぶことができ本当に良かったです。

慣れない土地で、文化の違いや言葉の壁に苦労したものの、自分で色々計画して行動できたので、なんだか成長した気がしました。午前中は授業にしっかり取り組むことができ、午後はBBQやプール、

ショッピングと目一杯遊ぶことができました。土・日も友人やホストファミリーとビーチや遊園地などに出かけて、とにかく遊びつくしました。

たまに日本食やお風呂が恋しくなりましたが、すぐにオーストラリアの生活に慣れることができました。ご飯も美味しく、自然も綺麗で、友人やホストファミリーにも恵まれ、とても良い環境で5週間を過ごすことができて本当に良かったです。

なにより一番嬉しかったのは、友達が沢山できたことです。日本人だけでなく、タイ人・中国人・サウジアラビア人・ブラジル人などの友達が出来ました。毎日お喋りをして、一緒に遊んで、別れ際にはパーティーをしてくれました。それぞれの国の文化や習慣について話し合うこともでき、驚くこともあれば感心することもありました。ただ、私がいまだに英語を話せなかったのがたまに苦労しました。もっと事前から勉強して英語を話せるようにしておいたら、もっと仲良くなれたと思います。今回出会った友達とは、もう二度と会えないかもしれませんが、私はこの出会いを大切にしたいと思います。これからも英語をたくさん勉強して、世界中に友達をたくさん作りたいです。

ありがとうございました。

（伊與田 里奈）

日本とはなんと恵まれた環境なのだろう。オーストラリアに着いて1週間たって感じたことです。言葉は満足に通じず、頼れる人も少ない。何かあれば自分一人であらゆることをしなければならぬ必要がありました。苦しいこともありました。それゆえの楽しさもまたありました。しかし言葉が通じない、自分の思いをうまく伝えられないというもどかしさと悔しさをいつも感じていました。

そのため普通の授業では積極的に発言し、様々な国の友達を作り、どんどん話しかけるようにしました。その甲斐あってクラス替えのテストのときにSpeakingのテストで最高の成績をとることができたと思います。日本人は常に文法を意識しがちでうまくしゃべることができません。しかし中国人、ブラジル人、サウジアラビア人、タイ人は文法こそ適当ですが日本人の3倍は話します。

僕は彼らを見習い、取りあえず話し続けるようにしました。オーストラリアに行って4週間がたったころにはそれなりにコミュニケーションが取れるよ

うになっていました。僕にはクラスで同じグループの仲良くしているサウジアラビア人とブラジル人と中国人がいたのですが、彼らと話すうちに確かにお互いの文化の違いなどはどうでもよくなりました。国同士の違いよりも個々の違いのほうが遥かに大きいのです。

どんな国の人も話してみなければどんな人かはわからないものです。それは留学する前にもわかっていたつもりでしたが、しよせんはつもりに過ぎなかったのだと痛感させられました。日本から出て日本人という枠、習慣、習性から解放されて、初めて様々なことを理解することができたと思います。これらのことも含めて留学では初めて気づいたことがたくさんあります。留学しなければ一生気づかないかもしれないこともありました。

日本に帰ってきてからは非常に複雑な気持ちになりました。食事、安全性、交通機関、ネット環境。様々な面で日本のほうがはるかに便利で優れています。しかしそれでも、もっとオーストラリアにいたかったという思いが今でも続いています。それだけ価値のあるものを僕に与えてくれたのが今回の留学だったと感じます。

日本にいては到底味わうことのできない新鮮さ、驚き、刺激を与えてくれました。またいつか短期でも旅行でもかまわないのでかならず海外に行こうと思います。

最後に留学するに当たりお世話してくださった留学生センター、留学生支援室の方々に感謝を。

（奥村 達也）

初めての海外短期留学で、行くまではホストファミリーやグリフィス大学での授業、生活習慣などあれこれ不安でいっぱいでした。また、今まで私的にほとんど外国人と話したことがなく、外国人は自己主張が強くはっきりした物言いをするなどといった固定観念みたいなものがありました。しかし、実際にオーストラリアへ行って彼らに接してみると、皆とても気さくで優しく、日本で暮らすのとほとんど変わらない感覚で不自由を感じることなく暮らすことができました。

例えば、一番気がかりだったホームステイでは、ホストファミリーのお父さん、お母さん、息子さん、そして留学生のカナダ人を含め皆とても愉快な人たちで、一緒に暮らしていて楽しかったし、不安に思

うようなことはありませんでした。しかし初めの2・3日は少しホームシックになってしまいました…。

また、グリフィス大学の授業では、クラスに中国や韓国、台湾、ブラジル、アフリカの人達がいましたが、文化の違いなどで大きな違和感を感じることもなく、楽しく過ごすことができました。しかし、まだ授業やクラスに慣れる前に、いきなりディスカッションをしろと言われてびっくりして、うまくやれるかどうかとても不安になりました。案の定、いざディスカッションをしてみると、私が発言している時はつまってばかりだったし、言いたいことをなかなか伝えきれませんでした。それでも、同じクラスのメンバーが私の下手な英語を最後まで真剣に温かく聞いてくれたおかげで、私も何とか自分の意見をそれなりに伝えることができ、本当にうれしかったです。

私は休日に岐阜大学の友達とグリフィス大学主催のアクティビティに参加したり、ゴールドコースト周辺の観光スポットを回ったり、日本ではなかなかできないような体験をたくさんしました。しかし、確かに日本人と一緒に休日を過ごせて楽しかったし安心だったのですが、折角の機会だったので、もっと外国の人とも一緒に休日を過ごせればよかったし、もしそうしていれば、英語がもっと上達したかもしれないと思います。さらに言うと、知り合いがない中でこのサマースクールに参加すれば、否応なしに英語が上達するかな、とも思いました。

私は将来外国で勉強するチャンスがあれば是非したいと考えていて、そのためにも英語を話せるようになりたいと思っていました。そんな時このサマースクールを知り、英語を少しでも上達させようとこれに申し込みましたが、40日間では英語が上達するには十分ではありませんでした。しかし、英語をもっと真剣に勉強しなければならないと再確認できたし、外国で生活したことで少しでもグローバルな視野を持てたのは貴重な体験だったと思います。

（雄山 裕亮）

オーストラリアで過ごした5週間は、今までで最も充実した時間となりました。私はもともと映画や海外ドラマが大好きで、海外に大きな憧れを持っていました。また、留学にも憧れを持っていたものの、なかなか一步を踏み出せずにいました。サマースクールに参加して、とにかく少しでも

前進したいというのが今回参加を決めた理由です。

申し込んでからというもの、私は出発までひたすらオーストラリアが楽しみでした。事前研修での英語の練習は本当に楽しくて、毎回わくわくしながら参加しました。留学生の方から学ぶ英語は日常会話寄りで、オーストラリアに行ってからとても役立ちました。

私はもともと、自分に自信が持てず消極的になりがちな性格です。しかし、不思議なことにオーストラリアでは、そういった消極的な気持ちでいるのがもったいない！と確信できるほど毎日の生活が楽しくて仕方ありませんでした。まるで映画の世界に入り込んだみたい！というのが私の口癖でした。少しでも現地の人とおしゃべりしようということを毎日念頭に置いて生活できたのがよかったと思います。オーストラリア人はみんな気さくで、話しかけると親切に答えてくれます。道などを聞くと親切に教えてくれたり、公園でご飯を食べている時に、同じベンチに座った夫婦とおしゃべりしたりもしました。つたない英語でも理解しようとしてくれ、日本人ですと言うと、日本好きだよ！とか、いつか行ってみたいとか、Sushiが美味しい！とか（笑）とてもフレンドリーに返してくれるこの国の人々が、私は心から大好きです。日本にいてももちろん英語を勉強することはできるし、努力すれば流暢に話せるようにもなると思います。しかし、このように外国の方と直接コミュニケーションをとる事ができるという喜びは味わえません。この事がオーストラリアに行ったら最もよかったと思う点です。

私が楽しい生活を送れたのは、大学の授業のおかげでもあります。すべて英語のみの授業という事で最初は不安でしたが、先生もクラスメイトも親切で、毎日楽しく過ごせました。先生はとてもはっきりと滑舌よく話してくれるので、とても聞き取りやすかったです。そして、日本人はもともと文法ができます！（笑）あまり授業に遅れをとっているという不安はありませんでした。文法がとても苦手な私がそう思ったので、間違いはないです。しかし、話せる学生は本当に流暢に英語を話すので、負けたくない！というライバル意識も持って授業に臨むことができました。また、その授業で習った英語を日常生活ですぐに生かせるというのがとても嬉しかったです。たとえば、最初の三週間は主に過去完了などについて学んだのですが、過去完了の概念は日本には

ありません。しかし、英語圏ではとてもよく日常で使われます。それに気づき、自分で使うことができた時はとても感動しました。

また、私たちが滞在したゴールドコースト周辺には、たくさんの観光スポットが存在します。大抵バスで行くことができるため、授業が終わってからの午後に遊びに出かけることができます。また、私は金曜日の午後と週末二日間を利用してちょっとした旅行にも出かけました。勉強だけでなく、オーストラリアの魅力も存分に味わえて、とても楽しかったです。

たった5週間という短い期間でしたが、今までにないほどたくさんの物事を学びました。そして、海外に対する憧れは今まで以上に大きくなりました。この体験を自分の人生でどう生かすかがこれからの自分にとって大事だと思います。最後に、このサマースクールを企画してくださった方々、事前研修を開いてくださった先輩方、一緒に参加したみなさん、そしてサマースクールに参加させてくれたお母さんに感謝したいです。

（上條 由貴）

私は日本にいる留学生と話すとき、日本語では理解してもらえないコミュニケーションのもどかしさを感じていた。そういうときに自分のつたない英語を話すのは恥ずかしかったし、うまく会話にすることができなかつたのであきらめてしまうことが多々あった。しかし、オーストラリアで過ごした5週間はどうしても英語を使わざるを得ない状況になるので、英語を使う良い機会となった。

私のサマースクールに行く前の目標は、とにかく現地の人と積極的に話すということだった。人々がとても気さくということで、私が話かけたときはもちろん向こうから私に話かけてくれることもあった。たくさんの人たちとコミュニケーションをとることができた。また、オーストラリアは多くの国の人が集まる場所で、独特の訛りがある英語を使う人も多く、だいたいの意味が通じればわかってもらえたので、自分もあまりミスに気をとられずに話すことができた。そして、授業では実用的な英語を習うこともあって、バスやスーパーなどで試すことができた。

反省点としては、大学では最初の3週間は他大学から私たちと同じように短期留学に来ている日本人

がクラスの半分を占めていたので、授業中にわからないとつい日本語を使ってしまっていたことだ。一方で、他の国から来ている留学生はグリフィス大学に進みたいという目的で大学に来ていたので意識が高く、文法はあまり得意ではなくても、英語で会話するのは上手だったのでいい刺激を受けた。また、私が留学生に文法を教え、留学生が私にどんな風に言ったらいいかを教えてくれ、お互いの苦手部分を教えあうのは勉強になった。

5週間で英語がペラペラに話せるようになるわけではない。しかし、何もしないままよりはましだ。何より自分が英語で会話をしたいと思うようになった。これからは使える機会があればどんどん英語を使っていきたいと思う。そして、この5週間で本当に多くの素敵な人たちに会うことができてよかったと思う。

（中島 わかほ）

オーストラリアでの思い出はすべて、かけがえないものです。ホストファミリーとの生活、大学での授業や友人、美しい場所を訪れたこと、そして遊園地で遊んだこと。数えだしたらきりがありません。中でも、私が最も心に残っているのは、大学でできた友人たちです。私が入ったクラスには、日本人が他にいませんでした。最初はとても心細い思いをしましたが、今となっては、むしろそれが幸いだったのではないかと思います。なぜなら、日本人同士で話すということはできないので、否応なく英語で他国の人と話さなければならなかったからです。そして、それによりクラスメイトと親しくなることができました。後半では、クラスは私にとって、とても心地よい空間となっていました。サマースクールが終わった今でも彼らは私にとってかけがえない友であり、彼らと一緒に授業を受け、過ごした、5週間は決して忘れることのできないものです。最後の授業の時には、皆がお別れパーティーを開いてくれました。全員がそれぞれお菓子を持ち寄って、わいわい騒ぎ楽しんだことは記憶に鮮明に焼き付いています。

現在強く思うことは、彼らにまた会いたい、ということです。また、彼らと話す中で、中国やブラジルなどの国々の文化についても触れることができました。日本と似ているものもあれば、かけ離れているものもあり、そういった文化の中で育った人と触



れ合うことは、私にもっと彼らについて知りたい、もっと一緒にいたいという思いを引き起こしました。このような機会を与えてくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。友人であるクラスメイトの何人かは、将来日本に行くつもりだと行っていました。今から、その時が楽しみでたまりません。

この、オーストラリアでのひと夏の経験と思い出、そして、得た絆は、私にとって何物にも代えることのできない大切な、大切な宝物です。

（野々垣 陽介）

私はこのサマースクールで多くの大切なことを学んだ。このプログラムに参加した理由は、親の勧めということもあったが、外国に行ってみたくてという思いが強かった。英語での会話は難しいと思っていたが、実際、単純な英単語しか使わなかったと思う。私のホームステイ先はマザーとマザーのお母さんと台湾人のお姉さんと私だった。私は台湾人のお姉さんとの会話で、自分のスピーキング力が上達したと思っている。少し心残りだが、正直マザーとはあまり話していないと思う。マザーとは最初に色々あって距離をおいてしまい、また最後の方は2週間ほど仕事で家を離れて全然会わなかったのもっと積極的に話しておけば良かった。英語圏に来たからと言って、自ら喋りにいかないとスピーキングはうまくならないので、もしプログラムに参加するのなら、失敗を恐れずに色々な人と進んで話すといいと思う。

私は、また GELI で沢山の国の人と会い、色々話した。お互いに質問しあい、それぞれの国について知り、またスピーキング力も上がったと思う。だが、

私は毎日、全く勉強をしなかった事を少し後悔している。毎日文法の宿題がでたが、簡単だったので毎日昼は友達と遊んで、夜は喋ったり、映画ばかり見て全く勉強しなかった。ここだけの話、宿題は授業中にやっていた。楽しかったが、勉強を一切放棄して、オーストラリアを全力で楽しみすぎた気がする。一応、語学留学としてオーストラリアに行った私だが、もう少し勉学に励むべきだったと思う。最終的に自分の意志が大事であると思った。でも、私はオーストラリアで一生忘れることのない思い出をつくることができた。私は少し変わった、人間的にも成長したと思う。言語、文化、習慣、全てが違う地で、学べること、得られるものは数えきれないくらいあった。皆さんも、もし参加するなら、全力で楽しんでほしい。

（村山 果甫）

私は今まで海外に行ったことがなく、高校生のころから大学に入ったら留学してみたいと漠然と考えていました。そして入学式前のオリエンテーションでグリフィス大学へのサマースクールの存在と、教育学部は実習の関係で1年生しか夏休みがあまりないということを知り、今年参加することを決めました。

GELIでの授業では最初の3週間は日本人が半分ぐらいクラスの中にいたので日本語に頼ってしまい、他の国の人と英語で話すことが少なかったのですが、残りの2週間はクラスに日本人が2人になったことで自然と英語を話す機会が増えていきました。クラスには私より年下の人はおらず、日本人以外はみんなグリフィス大学に進学するために来ていて、毎日英語だけでなく将来自分が専攻する分野も勉強しているという人がほとんどでした。中には英語を学び始めて数か月という人も多く、中学から6年間英語を学んできた自分が同じクラスにいることに初めは恥ずかしさ、悔しさを感じました。しかし一緒に授業を受けるうちに、日本人との授業態度の違いが関係しているとわかりました。彼らはわからないことがあったらすぐに質問し、知らない単語があったらまずは推測し、または母国語訳の辞書を見るのではなく先生に英語で意味を教えてもらい英語を英語で理解しようとしていました。そして新しく学んだ文法はすぐに使い始め、授業の時間と自分の時間との間に壁を作らず常に英語を使おうとしていまし

た。

ホームステイでは私のホストマザーは英語が第二言語であるためゆっくり話してくれましたが、彼氏はオーストラリア人であるためスピードも速くなまりもあり、初めの頃はマザーに通訳してもらいか聞き流すか…のどちらかでした。しかし、せっかく私に対して話してくれているのに聞き流してはダメだと思い、目、口、表情を見て意識を集中させたらだんだんと理解できるようになりました。言語以外の面では平日学校から早く帰った時には花の水やり、散歩、プールサイドでの日光浴、お庭でのお茶などを一緒にし、休日はピクニック、コンサート、熱帯雨林散策、クラブなどに行き、現地の人の生活を体験することができてよかったです。ホストファミリーにとっては当たり前の過ごし方が、ふだん家で暇なときはテレビを見るかスマホを触って過ごしている私にとっては、贅沢で何とも言えない幸せな時間でした。帰りが遅くなったとき家の外で待っててくれたこと、泣いてしまったとき抱き締めてくれたこと、熱心に英語を聞き取ろうとしてくれたこと、そしていつもそばにいてくれたこと…すべて忘れません。とにかくホストファミリーには感謝の気持ち

でいっぱいです。

私はこの5週間で英語力が伸びたとは言えません。リスニングは良くなったかもしれませんが、スピーキングにはあまり変化がないように感じます。これは自分が悪かったのですがあまり積極的に英語で話そうとせず、話をしてても相槌を打つことしかできなくて正直後悔がたくさんです。でもこの5週間の中で他の国の人や文化に触れることでもっと英語でコミュニケーションをとれるようになりたい！世界の文化、ライフスタイルについて知りたい！と思うようになりました。英語に触れる機会が少なくなった今、自分から英語に接する機会をつくらないといけないので英語の授業の時間だけ英語で考えるのではなく、日常生活でも常に英語ではどう表現するのだろうか？と考えるようにし、勝手に英語との壁を作らないようにしたいです。

最後に、家族や岐阜大学・グリフィス大学の方々、ホストファミリー、サマースクールに参加された方々のおかげで本当に素敵な夏休みを過ごすことができました。ありがとうございました。

（山内 千礼）

ソウル科学技術大学

●韓国 ソウル科学技術大学参加者名簿（合計5人）

日程：2013年8月12日（月）～8月21日（水） 2週間プログラム

	氏 名	学 部	学年
1	篠 田 真由子	教育学部学校教育教員養成課程 音楽教育講座	3
2	小 林 萌 香	地域科学部地域文化学科	2
3	馬 淵 桜 子	地域科学部地域政策学科	2
4	安 藤 知 美	工学部社会基盤工学科	2
5	水 谷 文 哉	応用生物科学部生産環境科学課程	1



◆ Hanbok (Traditional Costume) Experience (韓服体験)

韓国の伝統的な服である韓服（ハンボック）を着て写真を撮ることができた。様々な色の韓服が用意されており自分の好きな色の韓服を選んで、着せてもらった。着るのが難しそうに見えたが、案外簡単に着ることができた。

またこの日は8月15日で、朝鮮が日本から独立した日（光復節）だったので、同じ敷地内では韓国の旗の絵を描くと大きい韓国の国旗がもらえるというイベントもやっていた。



◆ NANTA show

(Percussion musical performance)

NANTAとは、包丁などのキッチン器具を楽器として用いてリズムを奏でながらストーリーが展開されていくミュージカルである。最大の特徴はほとんど言葉を使わない非言語公演なので、国籍を問わず楽しめる公演であった。時には観客がパフォーマンスに参加する場面もあり、笑いが絶えないミュージカルだった。STISSには様々な国の人たちが参加していたが、みんな楽しんでた。



◆ Cheongwadae Sarangchae & The National Folk Museum of Korea (青瓦台サランチェと朝鮮民族美術館見学)

青瓦台サランチェとは韓国の大統領官邸の近くにある、韓国の政治や文化について学ぶことができる場所である。英語を話すガイドさんについてもらい館内を回った。韓国の紙幣、世界遺産、大統領、映画やドラマなど様々な分野のことがタッチパネルや写真、映像を用いて紹介されており、韓国についてたくさん学べる場所であった。

朝鮮民族美術館では日本語のガイドさんについてもらい回った。ここでは、主に韓国の伝統的な生活様式について学んだ。日本と同様に韓国にも結婚式、出産、葬式などがあるけれど、韓国独特の儀式があり日本との違いをととても感じた。しかし、昔からの伝統的な儀式は今ではやらない人が多いということを知り、日本と似ていると思った。



◆ Taekwondo (テコンドー体験)

テコンドー体験は、2つのグループに分かれて別々の地元のテコンドー教室に行って教えてもらった。テコンドー教室の生徒さんには小学生くらいの



しゃれで過ごしやすかった。

移動にはバスや地下鉄を使っていた。1回1回お金を払って乗ることもできるが、サマースクール中何度もバスや地下鉄を利用するので、私たちは韓国に着いてすぐに T-money カードというものを買い、それを使って乗っていた。

（馬淵 桜子）

食べ物

寮の食事はプレートに自分で料理を取り分けていく方式で、好きな量に合わせて食べることができた。辛いものが多いと聞いていたが、キムチは毎日のように出てくるが、日本で出てきてもおかしくない料理も多く美味しかった。ピビンパブやメンミョンなど、韓国の代表的な料理も食べることができた。取り過ぎて食べきれず、捨てている人が多かったことが印象的だった。

韓国の食事のマナーとして、器を持ち上げて食べることがタブーとされているが、学生の間ではあまり気にしていないようだった。器を持ってスープを飲む人もいて、聞いてみると普通にみんなやっ

ることだと言われ、驚きだった。日本でも「いただきます」を言う時と言わない時があるのと似ているなどと思った。

最も印象的だったのは飲料水についてだった。水道水を飲む文化がないためかコンビニなどではとても安く売られており、大型のショッピングセンターなどはウォータークーラーを設置しているところもあった。その飲み方がまた面白く、紙コップの代わりにおいてある手のひらサイズの封筒に入れて飲んでいた。アイデアが斬新で、日本でも取り入れるべきだと思った。

（水谷 文哉）

放課後

放課後は毎日、STISS のみんなで街に出かけた。授業が終わるとみんながロビーに集まり、ボランティアの方々とその日どこへ行くか話し合い、いくつかプランを提示する。そして参加者は自分が行きたいところを選ぶというのが主であった。プログラムには含まれていないが、ボランティアの方々は放課後も世話をしてくれた。

●明洞

明洞はソウルでも中心街でショッピングやご飯など様々なことができる。また観光地としても有名である。私たちも明洞でショッピングやご飯を楽しんだ。観光客はもちろん、現地の人もたくさん足を運んでいるようだ。

●漢江

漢江では夜には大きな橋がライトアップされたり

噴水のようになったり川沿いでゆっくりできる場所である。みんなでチキンとビールを買って談笑した。チキンはデリバリーですぐ注文でき、とても新



明洞にて



バスケットボール



漢江での様子



景福宮の様子

鮮だった。景色もとてもきれいで、たくさんの人が集まる理由がわかる場所だ。

●学校の図書館・グラウンド

放課後に街に出かけるだけでなく、学校の図書館やグラウンドのバスケットボールコートにも足を運んだ。図書館はとても広く勉強をしている学生も多く見られた。また、グラウンドも多くの学生が使用していた。ここでもいろんな人を誘い、みんなでバスケットボールを楽しんだ。



図書館の様子



世宗大王の銅像（ハングルを作った人）

大学のサマースクールに行く機会を設けてくださった、岐阜大学留学生センターの太田先生や支援室の迫さん、韓国語の授業でお世話になった洪先生、語学研修で指導してくださった先輩方、ソウル科学技術大学の先生方やボランティアの皆さんのおかげです。本当に感謝しています。そして、一緒に岐阜大学から参加した4人にありがとうと言いたいです。みんなとても頼もしく、学年を超えて関わり合うことができ、本当に幸せでした。

感謝の気持ちを忘れず、このサマースクールで学んだことを活かし、残りの大学生生活を充実させたいです。「経験は今しかできない」という韓国のボランティアの言葉を胸に、自分の視野を広げ、積極的に行動していきたいです。

（篠田 真由子）

今回ソウル科学技術大学のサマースクールに参加して、今まで以上に韓国への関心が強くなった。そしてもうひとつ、たくさん仲間が来たことが私の中では大きなことであった。元々、韓国に関しては興味があり今回のサマースクールに参加したのだが、実際に韓国に行って普通の旅行では決して体験できないような多くのことをこの2週間弱で体験できたことが、更に韓国が好きになった理由だと思う。韓国語の授業などに加えて学校から離れて、ショーを見に行ったりテコンドーをしたり韓服を着たりと韓国文化をたくさん学ぶことができた。私が一番心に残っているのは、NANTAを観たことである。今回のサマースクールには多くの国の人が参加していたが、このショーは国籍を問わず一緒になって笑ったり、手を叩いたり盛り上がることができたからである。

そして、サマースクールをこんなにも楽しく過ごすことができたのも、多くの仲間がいたからだと思う。ソウル科技大のボランティアの方々には私たちの授業が終わった後に、毎日私たち参加者を様々なところに連れて行ってくれた。私はボランティアの方々がいなかったらこんなに有意義な時間を過ごすことができなかつたと思う。また他の国や日本の他の大学から来た参加者の皆さんと交流を深めることができた。今でも連絡を取ったりしてつながっている。他の国の人とは言葉の壁も多く感じたけれど、それを乗り越えて多くの仲間ができて幸せだった。

私は今まであまり積極的になれなかつたので、こ

のサマースクールでは、積極的になって帰って来ることができたらいいなと思っていた。他の国の人たちは日本人と比べて、はるかに積極的に先生に質問するし行動もするので、私ももっと自分から積極的に行動しないといけないなと思い過ごしていた。帰って来て、少しでも積極的になれたかは正直わからないが、日本人だけの集団では学ぶことができないことだと感じた。サマースクールに参加することができて本当によかった。

（小林 萌香）

今回 STISS に参加して一番印象に残ったことは、人との関わりを通じて人の温かさや優しさを感じたことです。私自身、留学という形で海外に行ったことはなく、様々な国の人と一緒に過ごすことは初めての経験でした。もちろん、初めは不安ばかりでした。英語や韓国語に長けているわけでもなく、コミュニケーション力もさほどない私が果たして海外でやっていけるのか…、そんなことばかり考えていました。帰国した今となってはそんなことを悩んでいた自分がばからしく思えます。いざ韓国に行ってみると、様々な国の人がたくさんいて圧倒されましたが、新しい出会いがたくさんあり本当に毎日が楽しかったです。授業も自分の韓国語の力を上げることはもちろん、先生や同じクラスのみなどと交流しそれぞれの考えを共有できたことがなにより勉強になりました。授業中はみんなでゲームをしたり歌を歌ったりする場面も多くあり、真面目に授業を受けるなかでも時に笑いがあって、本当にいい雰囲気です。授業を受けることができました。

また、授業の一環や放課後に、歴史的な場所を訪れたり伝統的な衣装を着たりして韓国の文化にも多くふれ、普段学ぶことができないことも学ぶことができました。そして毎日の楽しみといっても過言ではない放課後です。授業を頑張ったあとの放課後のお出かけはとても楽しく、学ぶことも多かったです。韓国の有名な場所やおすすめの場所に連れて行ってもらったり、夕食に本場の韓国料理を食べたり、とたくさん韓国について知ることができました。毎日を通して本当に STISS のみんな、先生、ボランティアの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。言葉が通じない部分も少なくはなく、分かりやすいように話してくれて優しさをひしひしと感じました。そしてとにかく誰と会話するにしても積極性が大切だと

学びました。また、とくにボランティアの方々は毎日放課後に私たちの世話をしてくれて自分の時間をさいてくれました。今回仲良くなれたみんなとは帰国した今でも連絡をとることもあります。本当に大好きです！私はこのサマースクールで多くのことを学んだことはもちろんですが、なによりもみんなと出会えたことが一番の思い出です。

（安藤 知美）

今回サマースクールに参加することができて本当に良かったです。大好きな韓国に行き、たくさんの人たちに出会って、話をして、勉強して、いろんな場所に連れて行ってもらって、おいしいご飯もいっぱい食べて、2週間しかありませんでしたが、いろんなことを経験することができました。

こんなにも充実した2週間を過ごせたのは、今回のサマースクールに参加したメンバーと、そしてなによりもボランティアの方々のおかげだと思います。ボランティアの方々は、放課後毎日私たちに付き合ってくれました。行きたいところがあればどこへでも一緒について来てくれたし、食べたいものがあればおいしいお店をわざわざ探してくれて連れていってくれました。韓国の男の人は優しいイメージがあったのですが、ボランティアの方々は（女の人も）想像以上に優しく、本当に嬉しかったしありがたかったです。なんでそこまで優しいのだろうと思うほど親切にしてもらいました。

観光地を見て、夕ご飯を食べた後はほとんど毎日深夜までみんなで話していたのですが、お酒の力もあってか言葉は通じなくてもみんなと打ち解けることができ、サマースクール最終日には別れがさみしすぎて涙が止まりませんでした。もう少し韓国語が話せたら、英語が話せたら、もっとコミュニケーションがとれたのに、もっともっと仲良くなっていたのに、と思うと悔しいですが、こんな短期間でこんなに仲良くなれたのは奇跡だと思います。このサマースクールでできた友達や思い出は一生の宝物です。

私にかかわってくださったすべての人に感謝します。

（馬淵 桜子）

僕がこのサマースクールプログラムに参加したきっかけは、平凡な学生生活を送っていた高校時代に、大学に入ったら何か新しいことをやりたいと思っていたからだ。そして、日々常に受け身で、与えられた学校行事や部活の練習を消化し続けるだけの生活を変えるために、サマースクールという未知の世界に飛び込んだ。

海外の学生と触れ合ってまず感じたことは、その語学力の高さだった。日本をはじめ、台湾、ロシア、モンゴル、アラブなど様々な国の人が集まったこのプログラムの公用語はもちろん英語だったが、参加者の中に母国語を英語とする人は誰一人としていなかった。それでも、ウェルカムパーティーで彼らの英語の自己紹介を聞いたときには、その語彙力の高さに驚いた。明らかに日本人のスピーチが一番拙かったのだ。また、ソウル科技大のボランティアの学生は日本語にとっても興味を持っており、独学で様々なフレーズを学んでいた。中には日本人顔負けの日本語を話す学生もいたが、彼は10年間にわたって日本語を勉強していた。

そんな彼らを見て思ったことは、言葉が「わかる」と、「話せる」とは違うということだった。僕の場合、相手に言いたいことを「伝える」ことから始まり、返ってきた答えを部分的に理解するという拙い会話ですら新鮮で、自分の英語がまず使い物になることに感動していた。話しかけなければ何も始まらないので積極的に会話に参加したが、他の人の会話を聞いているうちに、日常の会話ができない自分に気づいた。語彙がないと、普段の何気ない会話ができず、なんとなく距離のある会話になってしまうのだ。質問とその返答だけでは会話は成り立たないことに改めて気付かされ、いつか自分も海外の人とジョークを交わせるくらいになりたいと思った。

それでもやはり通じるものがあれば言葉の壁は乗り越えられるということなのか、僕は寮で生活を共にしたモンゴル人の学生ととても仲良くなった。海外に友達ができることも、このプログラムで得られる貴重な体験の一つだ。来年の6月、日本に遊びに来る彼と会うことが、最近の楽しみになっている。

（水谷 文哉）

木 浦 大 学

●韓国 木浦大学参加者名簿（1人）

日程：2013年7月31日（水）～8月10日（土） 2週間プログラム

	氏 名	学 部	学年
1	岩 田 紗 代 子	地域科学部地域政策学科	4



（筆者：右）

参加した経緯

私は2年前にソウル科学技術大学、昨年は木浦大学、今年も引き続き木浦大学のサマープログラムに参加しました。

2年前のソウル科学技術大学では、勉強不足により韓国語を使うことができず、街でも日本語が通じたため、それに甘えてしまったところがあり、反省点の多いプログラムとなりました。

1年後、木浦大学からの交換留学生と親しくなり、木浦大学が田舎にあって日本語が通じないと聞いたことも相まって、同校への参加を希望しました。長年サマープログラムに関する連絡が途絶えていたこともあって参加が危ぶまれましたが、岐阜大学の先生方や職員の方々のご指導を頂きながら、自ら先方へメールを送り、参加の切符を掴み取りました。前年の反省を活かし、積極的に韓国語を使うよう努力しましたが、プログラムの内容を詳しく知らされないうまま参加したために、あらゆる場面で準備不足を痛感する結果となり、特に Understanding Other Countries' Culture という、参加学生が自国の文化を紹介するプログラムでは、5分程度で終わってしまうような稚拙な発表を行うこととなってしまい、大変悔しい思いをしました。

それ以来、「必ずもう一度参加し、世界に誇れる日本を紹介したい」という思いのもと韓国語の勉強を続け、今年も木浦大学のサマープログラムへの参加を希望しました。

4. プログラム内容

Date	Forenoon (09:00 ~ 11:50)	Afternoon (13:00 ~ 17:00)
July. 31 (Wed)	Orientation	Experience 1 : Taekwondo Visiting MNU Gym
Aug. 1 (Thu)	Let's learn Korean 1	Experience 2 : Making Korean Pottery
Aug. 2 (Fri)	Let's learn Korean 2	Experience 3 : Making a Korean Traditional Kite
Aug. 3 (Sat)	Experience 4 : Natural Dying & Traditional Crafts	Experience 5 : Canoeing and Watching Korean Traditional Music Show
Aug. 4 (Sun)	Exploring 1 Jindo Area	
Aug. 5 (Mon)	Let's learn Korean 3	Experience 6 : The Art of Ceremonial Tea-making
Aug. 6 (Tue)	Let's learn Korean 4	Understanding Other Countries' Culture
Aug. 7 (Wed)	Experience 7 : Making Korean Traditional Food	Let's learn Korean 5
Aug. 8 (Thu)	Go to Seoul	Exploring 2 Visit Korean National Museum
Aug. 9 (Fri)	Attend STU Program	Exploring 3 Visit Kyeongbok Palace and Other Sightseeing Places
Aug. 10 (Sat)	Departing for Own Country	

1. 参加までの流れ

5月中旬 木浦大学サマープログラム参加者募集
(申請期間：1週間)

↓

7月上旬 飛行機手配、保険加入

↓

7月下旬 事前研修

2. 現地到着後の流れ

プログラム開始前日（7/30）現地入り

14:00 仁川国際空港出口 A 集合

↓バス

16:00 サービスエリアで夕食

↓バス

19:00 木浦大学寄宿舍前到着

3. 参加者

中国：女 4

フランス：男 1, 女 1

ドイツ：男 1, 女 1

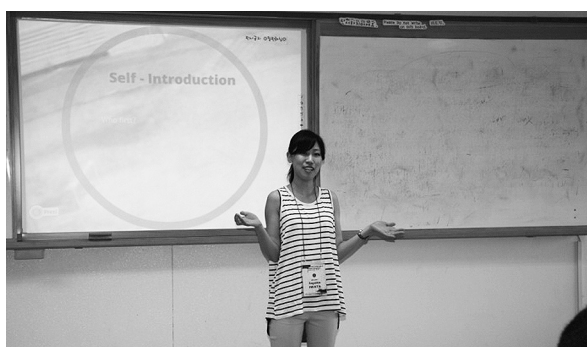
日本：女 1（交換留学生：女 4）

マレーシア：男 2

モンゴル：女 2

台湾：女 2

韓国：男 1, 女 6 計26名（男 5名, 女 21名）



5. Orientation

授業を受ける際のグループ分け、生活上の諸注意、大学の案内、参加者の自己紹介等が行われました。グループ分けは、去年のくじ引きとは異なり、すでに割り振りがされており、国が偏らないよう分散されていました。私は、他の日本人交換留学生と比較すると語学力が劣るとみなされたためか、日本語が話せる学生スタッフと同じグループに割り振られていましたが、ハンゲルを読んだり、基本的な挨拶をしたりすることができる、レベルの高いグループに移ることができました。私のグループは韓国2名、マレーシア1名、台湾1名、日本人1名で、台湾の学生とは、韓国語のみでコミュニケーションをとることができました。

6. Welcome Party

木浦大学のサマープログラムでは Welcome Party が行われなかったため、木浦大学の日本人交換留学生で、サマープログラムに参加していた学生達と Welcome Party を企画、参加学生中19人（独2、仏2、日4、韓6、馬2、中3）が集まりました。

開始時は同じ国の学生や言葉が通じる学生同士でかたまってしまっていたため、中盤でくじ引きによる席替えを行い、他国の学生と交流を深めることができました。



私はマレーシア人、韓国人学生と隣の席になり、会話は基本的に英語で、私が理解できない部分は韓国語で訳してもらいました。初めは理解できない部分もありましたが、お酒がすすむうちに英語と韓国語だけの会話でも楽しめるようになり、ジョークも理解できるようになりました。以前、英語の勉強法についてご教示下さった先生から、「お酒を飲むと適度に力が抜けるため、知らない単語に引っかかってしまうことがなくなり、外国語を上手く聞き取ることができるようになる」というお話を伺ったことがありましたが、今回の Welcome Party の際には驚くほど英語や韓国語を理解できるようになり、それを実感することができました。

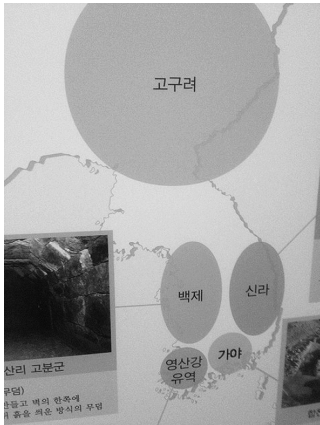
7. Taekwondo

講師：木浦科学大学の学生

MNU Gym にて、韓国の伝統武術である Taekwondo を体験しました。相手を蹴ったり、胸を突いたり、木の板をたたき割ったりする攻撃的な動作が多く、空手や拳法との共通部分が多く見られました。休憩をはさみながら、4時間程度講習を受け、挨拶や基本の形を学びました。



8. 木浦大学博物館



5世紀頃の韓国の代表的な国は高句麗(고구려)・百濟(백제)・新羅(신라)・加耶(가야)ですが、木浦大学では文献としては残っていない榮山江(영산강)周辺の歴史に触れることができます。

また、木浦の海は海外と貿易を行う際の拠点となっていたため、海底には難破船が多く沈んでおり、そこで発見された当時の貿易品も展示されています。

○榮山江周辺の人々の暮らし

BC10万年～ BC 1 万年 気候・水位は現在と似ていた。

BC1500年 青銅時代。遺物から、朝鮮本島と周辺の島々の間で交流があったことが分かる。

BC400年～ AC100年 三国時代の始まり。鉄器時代に突入し、産業が大幅に拡大。それに伴い人口増加。

AC668年 三国時代最盛期。日本の前方後円墳と似た墓が作られる。韓国国内で10基発見されている。日本との交流が始まり、陶器の様相も変化。「異形陶器」と呼ばれる。

○高麗の青磁

韓国国内の青磁のほとんどは生産地が分からないが、全羅南道で発見されたものには特徴的な模様がつけられているため、生産地を特定することができる。



9. Let's learn Korean

担当：オ・チュンジン先生

学生の語学レベル：

学生	学習状況	Listening	Speaking
モンゴル 2名	韓国語専攻、大学にて1年間勉強	5	5
日本人交換留学生 4名	各大学で勉強後、木浦大学語学堂にて半年勉強	4	3
日本 1名（私）	岐阜大学にて3年間勉強	3	3
台湾 2名	独学	2	2
マレーシア 1名	独学	1	1
その他16名	韓国語学習経験なし	0	0

- * 5 → 普通で速度で複雑な会話ができる。
- 4 → 普通で速度で日常会話ができる。
- 3 → ゆっくりとした速度で日常会話ができる。
- 2 → ゆっくりとした速度で簡単な会話ができる。
- 1 → ゆっくりとした速度で基本的な挨拶ができる。



学習形態：

5～6人グループ（韓1～2人）。

ある程度レベル分けされていた。

学習内容：

第1課 ハングル 第2課 母音（1） 第3課 子音（1） 第4課 子音（2）
 第5課 子音（3） 第6課 読み（1） 第7課 パッチム 第8課 読み（2）
 第9課 濃音と母音 第10課 文章の読み（1） 第11課 文章の読み（2）
 第12課 挨拶 第13課 こんにちは（挨拶） 第14課 はい、分かりました（同意）
 第15課 紹介 第16課 約束

レベル別の授業が行われると聞いていたにもかかわらず実施されなかったのは残念でした。しかし、学生スタッフが基本的な発音を直してくれたり、辞書には載っていないような若者言葉を教えてくれたりしたので、充実した時間を過ごすことができました。

10. Making Korean Pottery

木浦大学からバスで10分程度の所にある施設で、伝統的な陶磁器作りをしました。ろくろは使わず、粘土を円盤状にして器の底の部分を作り、棒状にした粘土を円盤の淵に沿って積み上げていくことで、器の壁の部分を作りました。施設の方に「去年も作りました」とお伝えしたところ、「だから上手なんだね」とお褒めの言葉をいただきました。

11. Making a Korean Traditional Kite

木浦大学の教室にて伝統的な凧作りをしました。材料は和紙のような薄くて丈夫な紙・竹・ご飯・糸で、ご飯を糊として竹を紙に張り付けていく、日本とよく似た作り方でした。



12. Natural Dying & traditional crafts

○ Natural Dying

木浦大学からバスで10分程度の所にある古民家で、植物による染色体験をしました。地元のお年寄りが中心となって教えて下さいましたが、ここでも「去年も体験しました」とお伝えすると、「楽しかった?」「きれいに染まってるよ」など、気さくに声を掛けて下さいました。

○ Traditional Crafts

陶磁器を作成した施設にて、「藁の卵入れ」を作りました。卵は昔、大変貴重なものであったらしく、藁で編んだ入れ物に入れて、友人や親へ贈ったそうです。卵入れ作りの前には脱穀体験もさせて頂きましたが、櫛の形をした器具に稲を引っかけて米を採る、日本と同じ手法の脱穀機でした。





13. Canoeing and Watching Korean Traditional Music Show

○ Canoeing

木浦市でカヌー体験をしました。ライフジャケットの着衣と30分程度の漕ぎ方の講習を受け、30分程度かけて川を一周しました。外国人ということもあってか、一般客の方々から応援の声を頂くこともありました。



○木浦自然史博物館

木浦自然史博物館は、恐竜骨格と化石、動物、植物、昆虫、鳥類、魚類標本などが展示されている国内最大規模の博物館です。私達は主に恐竜骨格と化石が展示されている地質館、動物や昆虫が展示されている陸上生命館を観覧しましたが、与えられた時間が1時間程度だったため、ゆっくりと回ることができませんでした。資料や標本がたいへん多く、内容が充実しているので、丁寧に観覧すると1日かかるのではないかと思います。

中でも、私が大変興味を持ったのは、「노루(ノル)」という鹿の一種です。調べたところによると、日本では「ノロジカ」と呼ばれており、日本名の「ノロ」は韓国名「ノル」が訛ったものだそうです。木浦自然史博物館に展示されている種は日本には生息していないようですが、木浦市の田舎ではよく見られるとのことでした。





○ Watching Korean Traditional Music Show

木浦市の施設にて伝統芸能を鑑賞しました。演劇や民謡、舞踊などが行われ、台詞や歌詞は分かりやすいようにスクリーンに表示されていました。また、韓国には地方によって歌詞や曲調が異なる「アリラン」という歌があり、ここでは、木浦市のある全羅南道という地方独特のアリランにも触れることができました。

14. Jindo Area

大学からバスで約1時間程度の所にある珍島 (Jindo) と呼ばれる島を散策しました。珍島は島全体が観光地となっているらしく、「珍島地方総合案内図」と書かれた看板が立てられていました。

○雲林山房

画家の一族が生活した、「雲林山房」という建築物の見学と彼らの作品を鑑賞しました。この一族は初代許鍊から五代目まで続き、中でも三代目林人の作品が多く展示されていました。

また、この地は国家指定名勝とされており、初代許鍊が植えたといわれるサルスベリの木も、そのまま保存されていました。



○アリラン体験館

先に触れたとおり、韓国国内には各地域で異なるアリランが存在します。珍島にあるアリラン体験館にて、アリランが誕生した理由や各地域のアリラン、アリランを歌う際に使用する楽器に触れることができました。

アリランの誕生には40ほどの説があり、中でも「新羅の始祖の妃であったアルヨンを称えたことに由来する説」「伝説の主人公アランを慕って、女性たちが歌っていた歌『アランガ』が訛って『アリラン』となった説」「李朝時代末の政治家、テーウォングンによって行われた景福宮の修復のために全国から集められた労働者たちが、故郷や愛する女性との別れを惜しみ歌った『我離郎 (アイラン：私は愛しい人と離別した男という意味)』がもととなった説」などが有力とされています。



また、アリランは、日本の祭りのように喜びを表現するためのものではなく、別れを悲しんだり、故人を悼んだりするためのものとされており、西洋から葬式の文化が流入する以前は、この世に未練を残すことのないようアリランに合わせて華やかな踊りを踊って故人を弔うこともあったとのことでした。

15. The Art of Ceremonial Tea-making

本浦大学内の施設にて、韓国の伝統茶道を体験しました。日本の抹茶とは異なり、韓国式の茶道は茶葉を使用し、急須・湯飲みなどは中国の茶器と似ていました。また、作法は男女で異なり、特にお辞儀をする際、男性は左手を、女性は右手を上にして両手を重ねる点が大きく異なりました。

その後、ハスの花や梅などを使ったお茶と餅菓子を頂きました。お茶はやかんや急須ではなく、大きな器に入れられ、そこから杓子で湯飲みに入れて飲みました。

最後に韓服を試着しました。韓服を着るのは3度目で、毎回2、3分程度で着付が終わるので、韓服は大変着やすいものだばかり思っていたのですが、実は私が着ていたものは体験用の簡単なもので、本物の韓服は大変手間のかかるものだという事を今回初めて知りました。



16. Understanding Other Countries' Culture

○ドイツ

- ・1959年にフランスとの境界が決まる。
- ・冬は-20℃になる。
- ・宮殿が多く、中では演奏が行われることもある。
- ・教会も多く、外見は簡素だが、内装は豪華である。
- ・豚の首の肉のソーセージが有名でポテトと共に食べる。

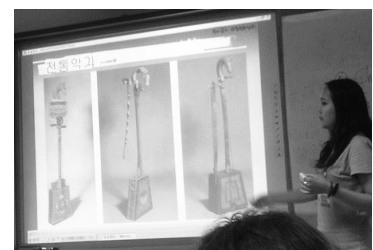
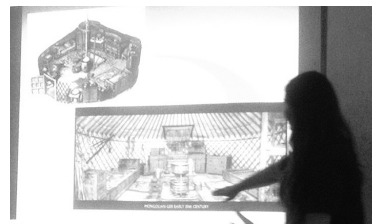


- ・ビールが名産で、町のビアガーデンのウェ이터達は片手で5つのジョッキを運ぶことができる
- ・フットボールが有名。
- ・nuttelaと呼ばれるピーナツバターのようなペーストが有名で、朝食のパンに塗って食べる
- ・交通規制なしの標識がある（スピードも規制なし）（下図）。



○モンゴル

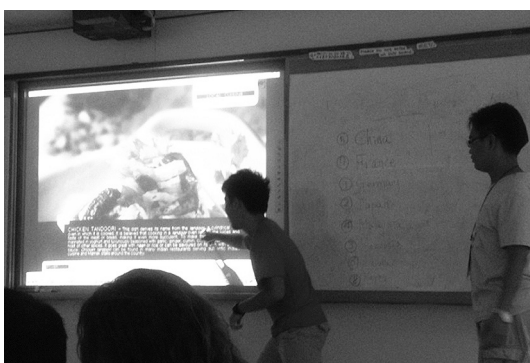
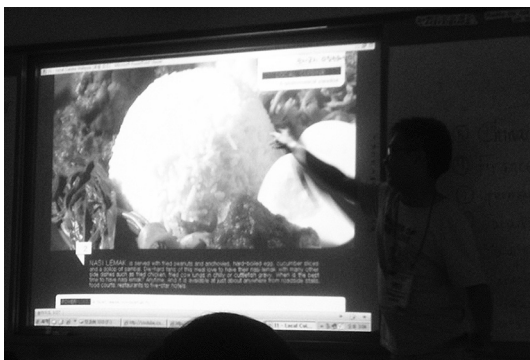
- ・首都はウランバートル
- ・伝統家屋はゲルと呼ばれる、移動式の大きなテントのような建物で、部屋の中心で火を焚き、食事の準備をする。移動の際は、小さくたたみラクダの背に乗せて運ぶ。



- ・伝統楽器は馬頭琴といい、三味線のような弦楽器の先端に木彫りの馬の頭が付けられている
- ・伝統の歌は、喉の奥から声を出すホーミーという歌い方で歌われる。

○マレーシア

- ・マレーシア語で休日はチュキチュキという。
- ・海や熱帯雨林が観光資源となっている。
- ・国は大陸とつながっている部分と島の一部の2つに分かれている。
- ・街には屋台が立ち並んでいる。
- ・食事はご飯とおかずがワンプレートになったものが一般的。ご飯はナシという。
- ・インドや中国の食文化が入り交じっているため、カレーや月餅も国民食である。
- ・寺院もインドや中国式のものがある。
- ・言語はマレー語・英語・中国語を学ぶ。
- ・マレー系とインド系は手で、中国系は箸で食事をする。



○台湾

- ・40の地域に区分され、地域ごとに民族衣装も異なる。イギリス文化も混じっている。
- ・太陽餅と鳳梨酥（フォリンズと読む：パイナツ



○中国

- ・紀元前220年に建国される。
- ・46の地域に区分される。
- ・北京のオペラとカンフーが有名な芸能である。
- ・月餅が名産である。



ブルケーキ）が名産。

- ・豚の血を使った餅も有名。
- ・8月8日の父親節など、祭日が多い。
- ・英語も含め、4つほどの言語を使う。

○フランス

- ・22の州がある。
- ・人口は6,000万人。
- ・自由と平等を尊重する国柄である。
- ・エッフェル塔、凱旋門と共にルーブル美術館が有名。
- ・世界中でフランス料理が1位（日本は4位）と言われている。
- ・サッカーが有名で1998年にはワールドカップチャンピオンになった。
- ・kouglogg というシフォンケーキのようなお菓子が名産。
- ・クリスマスには街に屋台が出て、大きなクリスマスツリーも設置される。
- ・一般的に大学は小さく、一つの建物の中に全ての学部が収まっている。



○日本

- ・国土面積は約38万平方キロメートル。
- ・人口は約12,780万人。今後減少に向かうと言われている。
- ・平均年齢は男性79.44歳，女性85.90歳。
- ・現首相は安倍晋三。「アベノミクス」という経済政策を打ち出し，金融政策・財政政策・成長戦略を「3本の矢」として，日本経済の回復を試みている。
- ・日本文化を“Cool Japan”として，世界へ発信しようとしている。
- ・現在，着物は七五三や成人式のときによく着られる。
- ・挨拶は朝・昼・晩で異なる。食事の前後にも挨拶がある。
- ・公共交通機関内での化粧や電話はマナーに反する。
- ・「森ガール」「原宿スタイル」「ギャル」「ロリータファッション」など，日本独特のファッションが確立している。
- ・マンガ文化が発達し，世界でも人気がある。
- ・名古屋は味噌を使った料理が有名。
- ・岐阜は鮎が有名で，鮎をかたどった菓子もある。
- ・東日本大震災発生から2年以上経ち，再興されつつある。

17. Making Korean Traditional Food

担当：パク・ボクヒ先生

6～7人の4グループ

木浦大学内の調理室にて，キムチ漬け体験とピビ



ンパとソンピョン（餅菓子）を作りました。

ピビンパに使用された食材は、牛肉、ニンジン、モヤシ、キュウリ、シイタケでグループごとに異なる食材を調理しました。また、ソンピョンは砂糖入りのすりゴマを餅で包んで松葉と共に蒸した韓国の伝統菓子で、ソンピョンをうまく作ることができる人のもとには美しい娘が生まれると言われ、各グループでオリジナルの形のソンピョンを作り、形やユニークさを競いました。

また、パク先生の助手の方が、食後全員分の皿を洗っていた私の姿を見て、「去年に引き続き、日本人は本当にいい学生ばかりだ」とおっしゃっていたと木浦大学の学生スタッフが教えてくれました。日本人にとっては当たり前の行為ですが、それを評価し、日本人に好印象を持って頂けたことを大変うれしく思いました。

18. Visit Korean National Museum

8月8、9日はソウル科学技術大学への宿泊小旅行だったため、移動途中にソウル市内にある国立中央博物館を見学しました。

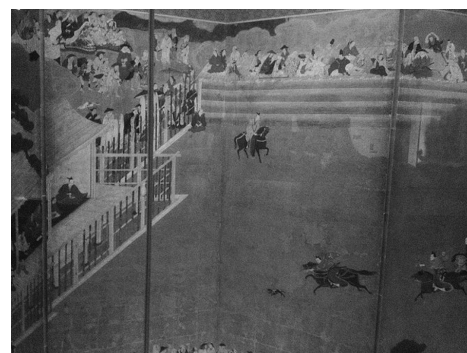
まず、特別開催されていたイスラム展を見学し、10～20世紀頃の装飾品や水差し、カーペット、宝石などを見学しました。韓国の博物館では、基本的にフラッシュをたかなければ展示品を撮影できるた



め、宝石が散りばめられた装飾品を熱心に撮影する見学者の姿が多く見られました。

次に、フロアごとに世界各国の史料を見学することができる本館を訪れました。海のシルクロードを渡る際に、嵐によって難破した船の輸送品が新安(木浦市に面した海)に流れ着いたため、木浦市で発見された史料も多く展示されており、木浦市が韓国の歴史を紐解くために大変重要な土地であるということを知ることができました。

また、私は幼少期より美術に大変興味があったため、日本を紹介するフロアで『犬追物図屏風』や『東



『海道五十三次』を間近で見学し、教科書でしか見たことのなかった歴史上の傑作に触れることができた際には、大変感動し、大きな喜びを味わうことができました。

19. Visit Kyeongbok Palace and Other Sightseeing Places

ソウル市内にある景福宮と宗廟を見学しました。

まず、景福宮を訪れ、1日に3回しか見ることのできない守門将（王宮の警備役）交代儀式や、宮殿とその周辺に広がる庭園を見学しました。しかしながら、美しい建築物が立ち並ぶ一方で、工事中の場所も多く見られたため、木浦大学のスタッフに尋ねてみたところ、日本との戦争により焼失し、現在復旧工事が進められているとのことでした。帰国後詳しく調べてみると、「景福宮は1395年に建てられた朝鮮王朝の王宮であったが、文禄の役で日本軍によって全焼させられた」ということで、今も韓国に反日感情が根強く残っている所以を垣間見た気がしました。

次に、朝鮮時代の歴代の王と王妃が祀られている宗廟を見学しました。広大な敷地に建てられた5つの建物が全て石畳の道でつながっており、その石畳の中心が神（王と王妃の魂）のみが通る道として区切られ、通行が禁止されているのが特徴で、他の建築物にはない厳粛な雰囲気を感じました。



20. その他

○日韓関係について

パク・クネ政権発足以来、日韓間では未だ正式な首脳会談が行われておらず、独島・竹島問題も相まって、緊張状態が続いているのが現状です。木浦市内では「独島は我々のものだ」という看板が掲げられ、木浦大学内では「日本の製品を買うのはやめよう」という言葉とバツ印のついた日本製品の描かれた横断幕が随所で見られました。木浦大学のスタッフとも話したのですが、メディアの情報を鵜呑みにするのではなく、個人同士の交流により互いの理解を深めていくことが国家間の不和を解消するうえでも重要であると感じました。

○北朝鮮について

木浦大学のスタッフから聞いた話ですが、そのスタッフの知人は以前、バスの中で北朝鮮出身の老婆と会話をしたことがあるそうです。その老婆が、「韓国人は自分で仕事を探さなくてはならないから大変。北朝鮮では將軍様が仕事を与えて下さるのに」と話していたと聞き、与えられることしか知らず、自由を権利だと考えることができなくなってしまった老婆を憐れむとともに、北朝鮮がいかに悲惨な状況であるかを痛感しました。

今後も、私自身が大変恵まれた環境にあることを忘れず、各国で生じている問題に対して当事者意識を持って臨んでいきたいと強く思いました。

21. 感想

この3年間のサマースクールの中で、最も事前準備に時間をかけたのが今回のサマースクールでした。前述の通り、去年の Understanding Other Countries' Culture のプログラムで味わたった悔しさをバネに1カ月前から発表用の資料を作り始め、20ページを超えるスライドと推敲を重ねた原稿を持ち、浴衣も持参してサマースクールに臨みました。

しかしながら、今年のサマースクールで感じた海外の視線は、過去とは異なるものであったように思います。先にも述べた通り、韓国国内ではあらゆるところで反日感情をあらわにした看板や横断幕が張られ、サマースクールに参加していたフランス人学生からは「日本は危険でしょ？フランス政府は日本への渡航を控えるように警告しているよ」と衝撃的な言葉が聞かれました。また、これを受けて、この3年の間に生じた領土問題の深刻化や東日本大震災による原発問題が、これほどまで海外の対応を変えてしまうのかと驚くとともに、過去2年間のサマー

スクールでは、日本人がどれだけ優遇されていたのかを痛感し、自身の甘さを感じました。

こうしたこともあって、Understanding Other Countries' Culture のプログラム当日、「これで日本の良さを伝えられるだろうか」という不安と、「1か月の努力を披露できる瞬間が来る」という興奮が入り交った複雑な心境でしたが、浴衣を着て壇上に上がったとき、各国の学生達が大きな拍手と歓声を上げてくれたことで、落ち着いて発表を進めることができました。

そしてスライドの最後、苦手な英語を使って、東日本大震災後の日本の現状も伝えました。震災発生直後の写真も掲載したため、学生達からはため息のような声が聞かれましたが、各国の救助や支援への感謝の言葉と日本が再び立ち上がろうとしている様子を伝え、発表を終えたとき、壇上に上がったときよりもさらに大きな拍手を贈ってくれました。その瞬間、努力が報われたと感じるとともに、本当の日本を知ってもらえたことに対する喜びが込み上げてきました。

さらに、前述のフランス人学生から「日本はいい国だね。日本語を勉強して日本へ遊びに行くよ」と声を掛けられたときには、「私でも国家間の誤解や不和の解消に貢献できるのだ」ということを確信し、自分に対して自信を持つことができました。

私が3年間このような素晴らしい体験をすることができたのは、ひとえに太田先生や留学生支援室の迫さんのご指導・ご協力があったからです。心よりお礼申し上げます。また、この報告書が、少しでも今後サマースクールに参加する学生の参考になれば幸いです。

短期留学（サマースクール）参加者アンケート

グリフィス大学

【アンケート回答率】 100% 回答者数：11人（参加者数11人）

1. 先方の大学での研修について

- a. 履修した授業の内容（科目、授業の概要等）とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。Reading（Eye of the storm, 課題図書を宿題で読み週に1回内容の確認の授業を行った, 短めの小説など日常的に実施, 様々なテーマについて取り組んだ。配布されるプリントやReading専用のテキストは基本的に日本人の留学生にとって簡単なレベルでむしろ若干物足りなさを感じるほど）

3.8点（回答数：11人）

Writing（手紙の書き方, 経験などの書き方, 最も好きな先生について, レポート, パンフレットの作り方, メールの書き方, 日本の紹介, オーストラリアとの文化の違い, 苦情の手紙, 学んだ文法を使った作文, 親友について, 理想の相手について, テストの時以外は授業ではほとんど扱わなかった。）

4.0点（回答数：10人）

Listening（穴埋め, 歌詞, ラジオ番組のききとり, 基本的には教科書の問題が多いが時々時事的なニュースを絡めたYouTubeの動画（オックスフォード大学の紹介PV, 世界一の建造物ブルジュハリファについて, 宇宙エレベーター, 英語の歌など）を利用して。どれもこちらの興味を引くようなものばかりでリスニング嫌いの自分が楽しみながら授業を受けることができていた。）

4.1点（回答数：10人）

Speaking（会話, プレゼンテーション, ほぼ毎日, 自分の意見などを話す機会がある。ペアワーク, グループワークでテキスト内容, 各自の国についてなど, 学んだ文法を使って話す, 話し合い, 基本的に所属したクラスは全てグループ

学習を積極的に取り入れているクラスばかりだったので, 問題を解くたびにグループ内で友達と答え合わせをしてから先生の回答を聞くことが多かった。またそれと同様にグループでのディスカッションやディベートも頻繁に行われ, speaking能力の向上には非常に大きな役割を果たした。個人的には留学後最も伸びたのがspeakingだと感じている。しかし評価点が4点だったのは最初のクラス（一度クラス替えをおこなっている）では文法中心であったこと, そして日本人がクラスの半分近くいたこともあり4週間目が始まるまで授業での会話全てを英語で行うことができなかったからである。2つの要因もあり, どうしても日本語を使ってしまう場面が多々ありなかなかspeaking能力は向上しなかった。

しかし4週間目以降はほかの大学から来ていた日本人のほとんどが帰国したため, クラスには日本人がほとんどいない状態で授業を受けねばならず, 英語を喋らざるをえない状況になり加えて授業でのspeakingの機会が増えたこともあり, それまでのことが嘘のように英語が口から出てくるようになった。）

4.1点（回答数：9人）

Grammar（過去, 未来, 現在, 現在完了, 前置詞）

3.7点（回答数：3人）

Pronunciation（RとL, th等）

5.0点（回答数：1人）

Project（1週間QLD州を旅する, グループ活動）

5.0点（回答数：1人）

- b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。

Byron Bay（バスでのByron Bayのlight houseなどへ行った。）

4.2点（回答数：6人）

David Fleay Wildlife Park（アクティビティ担

当者と一緒にパーク内をまわり、オーストラリアの動物を見る。）

3.8点（回答数：4人）

ブリスベン観光（サウスバンク、博物館見学、マーケットなど）

5.0点（回答数：4人）

Skypoint（高層ビルからの景色）

4.0点（回答数：2人）

Visit the Gold Coast Show（地元のお祭り、移動遊園地など）

5.0点（回答数：1人）

English Conversation Circle (ECC)（グリフィス大学に來ている外国人留学生（主にブラジル人、韓国人、タイ人、サウジアラビア人など）とひたすら英語で会話する活動。大学の職員監督のもと、テーマを決め、意見を述べる形式、様々なことについて説明するなど。月に一回だけ開かれたが参加したメンバーの希望で自主的にその後何度か行った。程度に差はあれどほとんど外国人はかなりbrokenな英語なのでnativeほど気負う必要もなく気楽に話すことができ、非常にSpeaking能力の向上に繋がったと思う。）

5.0点（回答数：1人）

c. 先方の受け入れ体制について

・生活面で世話をしてくれた人は誰ですか？（名前、分かれば役職も教えてください）

①ホストファミリー

- ・学校への送り迎え
- ・毎日の弁当、夕食
- ・洗濯、掃除
- ・いろいろな所に連れて行ってくれた。
- ・バスの時刻表を手配してくれた。
- ・話し相手
- ・サーフィンやパドリングに連れて行ってくれた。

②カイリーさん、エマさん

- ・アクティビティの申し込みなど

・勉強面で世話をしてくれた人は誰ですか？（名前、分かれば役職も教えてください）

①グリフィス大学の先生（Richard, Brett, Sue, Reon, Manuela, ユタ, マリス, ケイ

リン, ダニエル）

- ・わからないところは丁寧に教えてくれた。どうすれば語学がのびるか教えてくれた。たまに何を言っているのかわからない。
 - ・分からない所を聞いたら、簡単な英語で教えてくれた。
 - ・授業やテストを通してのアドバイス、分からなかったところを質問したときに分かるまで教えてくださった。
 - ・Rich, Brett は日本語がわかるため、授業の中でわからないところがあると、日本語で説明してくれた。Rich, Manuela はホストファミリーなどへの手紙を添削してくれました。
 - ・最初にクラスに入った時は分からない事も多かったのですが、先生が色々教えて下さいました。
- ②ホストマザー
- ・宿題をみてくれた。
 - ・毎日書いていた英語の日記の添削など

・その他で頼りになる人、世話をしてくれる人はいましたか？（名前、分かれば役職も教えてください）

①現地で仲良くなった日本人留学生

- ・いろんなアドバイスをしてくれた。
 - ・現地での文化の違い、バスについてなど。生活面でのことを教えてもらいました。
- ②同じホームステイ先の中国の学生
- ・一緒に生活する上で、とても頼りになる友達だった。
- ②クラスの友達、受付の方々（日本語を話せる人）
- ・何か分からないことがあって、尋ねると教えてくれました。

d. 留学期間について（長いまたは短いと答えた人は何週間が適当か記入してください）

適当 7人

長い 2人

短い 2人（7週間、何とも言えません…きっと何週間でも短く感じたと思います。）

e. その他授業について困ったこと、先方に対する要望等自由に記入してください。

- ・授業の内容自体は簡単だったので何も困らなかったが、ペアを日本人同士で組んだので分けてほしかった。あとクラスにほぼ日本人がいたので、もう少し考えてほしかった。
- ・最初の3週間はクラスに日本人が多かった。
- ・席が固定されてしまい、特定の人としか関われない週があった。英語のレベルの問題もあると思うが、日本人がほぼいるのクラスと全くいないクラスがあったので、もう少しわけてほしかった。

2. ホームステイについて

部屋の広さ：1部屋 30㎡：1人，15㎡：1人，10㎡：1人，3㎡：1人

a. 部屋にあった設備を記入してください。例：テレビ，電話，バスルーム

ベッド，ロッカー，小物入れ，勉強机，椅子，ライト，ハンガー，ソファー，クローゼット，鏡，棚，テレビ，ゲーム，ゴミ箱，ラジオ

b. 食事はどうしていましたか？

- ・毎日作ってもらった。
- ・昼は適当に自分でつくって、朝もトーストを焼いて食べた。夜はマザーがつくった。
- ・朝食は自分で作る。昼食はサンドイッチを作ってくれた。夕食も作ってもらった。
- ・朝：自分でトーストや目玉焼きなどを準備して食べた。昼：果物やスナック菓子などはお弁当箱（？）に準備してあった。朝，自分でサンドイッチを作ってもって行った（具はすでに準備してあった），カップラーメンの日もあった。夕食は外食時以外すべて作ってもらった。
- ・朝は自分で用意し，昼・夕は作っていただいた。
- ・朝食：コーンフレーク，昼食：ホストファミリー手づくりのサンドイッチ，フルーツ，飲み物，夕食：ホストファミリー手づくりの料理。
- ・朝はシリアルを自分で食べることもあったが，基本的に全てホストマザーがつくっていた。

・朝：紅茶，シリアル or トースト，手作り野菜ジュースすべてマザーが用意してくれた。
 昼：お弁当を作ってくれた（サンドイッチ，ヨーグルト，フルーツ，お菓子）。夕食：マザーが作ってくれたもの，ステイ中3，4回外食もあった。

・朝，昼食：自分で用意する。夕食：ホストマザーが作ってくれた。

・朝は自分で作る事が多く，昼夜はホストマザーが作ってくれることが多かった。

・ほぼ家の食事を食べていた。昼食は弁当を持参して学校で友達と食べていた。外食をしようとするとかかなり高額になってしまうため（学食やマクドナルドのようなファーストフードでさえ最低で1,000円近くかかる）外食はなるべく控えていた。

c. ホームステイ先での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。

・部屋に机がなかった。行きたい時にトイレに行けなかった。いいたい事をつたえられず困った。

・トイレの鍵の建て付けが悪かった。

・虫が多い。

・洗濯が週に1，2回なので，下着がなくなってしまった日が1回あった。テレビを見る時間が長く，あまり会話できなかった。

・ペットがいない，と書いてあったのだが外で飼っている鳥がいて，アレルギーがあったので，きちんと分かると思った。

・外食が高額すぎる（1,000円以上がほとんど）。水，ソフトドリンクなど飲料が非常に高い（500mlで380～500円）。

・水不足のためシャワー，手洗い，歯磨きなど水の利用について厳しい。

・移動手段がほぼバスに限られるのでバス代が高くつく。

d. ホームステイについて良かったこと・悪かったこと，要望など記入してください。

〈良かったこと〉

・家が大きかった。近くで野生のカンガルーが見られた。ホストファミリーが親切で優しい。

- ・オーストラリアの日常生活にふれられてよかった。ホストファミリーがいい人たちばかりで、楽しかった。料理もおいしかった。
- ・とてもお世話下さる方々だったので、何も困らなかった。様々な場所に遊びにつれていってくれた。ご飯がおいしかった。
- ・ホームステイ先の方が色々な場所に連れて行ってくれたので、車でしか行けない所にも行けてよかった。
- ・楽しく過ごせた。
- ・ホストマザーがとても優しい方でいつも気にかけてくれていた。
- ・ホストマザーが優しく、夕方6時までには帰宅するということ以外のルールはなく居心地がよかった。ホストマザーやその彼と夕方散歩に行ったり、夜にクラブへ行ったり、現地の人生活を体験できてよかった。
- ・とてもすてきなステイ先でした。本当の家族のように思えました。
- ・とにかく生活の全部が英語に触れる環境。子供がいたので一緒に遊んだり、出かけたりすることが楽しかった。
- ・ほかの留学生がおらず不安に思うことがあったものの、ホストファミリーが全員僕自身の相手をしてくれたり面倒を見てくれるのでコミュニケーションが取りやすく話す機会も増えるので英語の向上に有利。
- ・ほかの留学生にステイ先のルールなどを教えてもらえるので生活に早く慣れることができた。

〈悪かったこと〉

- ・Surfers Paradise まで行くのに1時間半程度かかった。
- ・マザーが1週間ほど仕事に出ていなかった時、夕飯が色々大変だった。洗濯が38日間で3回しかやれなかった。
- ・バス代がけっこうかかった（2万円くらい）。
- ・ごはんが少し少なかった、ごはんを多くして欲しい。
- ・一度ステイ先を変っていた時のホストマザーはほかにも留学生を受け入れていたため忙しく、日記の添削や話し相手になってもらうことができなかった。
- ・ほかの留学生がいたため、あまりホストファ

ミリーとコミュニケーションがとれなかった。

- ・家が学校から遠すぎて大学での自由時間がほとんどなかった。

3. 生活全般について、トラブルがあればその対応も記入してください。

トラブル：バスに乗っていたら、変な人からまれた。

相談相手：

対 応：無視

トラブル：風邪を引いた。

相談相手：ホストマザー、海外危機管理サポートデスク

対 応：保険の適応する病院にマザーに連れて行って貰った。

保険の紙を持って行くのを忘れていたのですが、保険会社の方が上手く対応して下さいました。

4. 所要経費について（平均）

- ・支出総額 704,524 円

内 訳

参加費 599,520 円（航空費・宿舍費含む）

食 費 7,524 円

保険料 22,460 円

その他 70,803 円

- ・参加費について

高い：8人 適当：2人 安い：0人

特に航空費代は高すぎ。いかにお盆であるからといっても高額すぎる。バスや車で関西国際空港などの大きな空港に移動してジェットスターなどの格安航空にすれば半額以下ほどに抑えられるはず。実際ほかの日本の大学から来ていた学生の殆どは格安航空会社を利用していた。航空費で200,000円も使うのはおかしい。岐大留学メンバーの中でも、生協を通さずに格安航空会社のチケットを買って個人で行ければよかったなどの声が多く上がっていた。

5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。

（学内の諸手続きについて）

- ・生協や留学生支援室がいろいろやってくれてすごく楽だった。
- ・円滑に手続きを進めていただいて、ありがとうございました。
- ・手続きをひとまとめにしてくれたら、分かりやすかった。
- ・書類を出すだけであとはすべてやって頂けたので感謝しています。
- ・単位取得についての手続きが分かりにくかったです。
- ・航空費代の減額。
- ・Wifi 環境の認識の違い。AU では日本ほどインターネットの普及がすすんでいない。ステイ先の条件にインターネットが使えることという条件を課したが、通信料制限があるからと言われて満足にインターネットを利用することはできなかった。

（出発前の事前研修について）

- ・留学前の準備、留学中などで気をつけることを教えていただき、あまり心配ごとがなく留学できた。
- ・もう少し早めに日程を知りたかった。
- ・出発前に以前の参加者からアドバイスをきく機会があって、持ち物やお金などの参考になったのでよかった。
- ・楽しく学べたのでよかったです。
- ・自信もついたし、実際に役立ちました。
- ・出発前に英語を話して、聞いてという機会があってすごく良かったと思います。

6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

- ・充実していて、とても良かった。
- ・外国での短期留学に興味をもっていたから。英語での会話を高めたかったから。親に勧められたから。
- ・Listening の力が以前よりも上がったと思うのでよかった。異なる文化を実際に目にして体験できて、視野を広げることができたと思う。逆に日本についても伝えられて、楽しく生活できた。
- ・行って良かった！！と本気で思えた。すばらしい経験ができ、大変大満足でした。授業も

とても良かったので、行く前よりは英語の力がつきました（特に Speaking）。

- ・オーストラリアの人々や、学校に来ている他国の留学生など、多くの人と関わることができ、とてもいい経験になった。
- ・本とかで他の国のことを少しは知っていたけど、実際に他の国の人と話してみたら「本当はこうなのだ」ということを知れて良かった。バス代が0円の人と15,000円の人との差が…。日本人の友達とずっと土日遊んでしまった…。
- ・ホームステイ先やクラスなど、とても恵まれた環境だったと思う。初めの1週間はクラスに日本人が自分を含めて2人だけで、授業もついていけるか不安だったが、逆に勉強になってよかった。参加できて本当によかったです。ありがとうございました。
- ・ホームステイでは旅行ではできない、オーストラリアの生活を体験することができ、学校では他国の人たちと文化の違いについて少しだけだが話し合えてより世界に興味ももてた。正直後悔もたくさんあるが、充実した日々をおくれてよかった。
- ・本当に参加してよかったです。
- ・とにかく楽しかったです。帰りたくないと思ったし、すごく良い経験になりました。また行きたいです。英語の学習と言う点でも、大学の授業だけではなく、生活のすべてが英語というのがすごくよい環境だと思いました。
- ・留学することでしか得られないものをたくさん得ることができたと思う。日本を出て様々な国の学生との交流は自身の価値観に大きな影響を与えた。ここだけでは到底書ききれない。

7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

- ・荷物の重量は20kg をオーバーしても OK。23kg くらいだったが問題なかった。
- ・むこうはけっこう寒いから、長そでをたくさんもって行った方がいい。むこうで友好関係を築こうと思ったら、Facebook に登録しとくといい。履くものはふつうに歩ける靴とサ

ソックスとスリッパを用意しておくとし便利。マスクをもって行った方がいい。パソコンは重いのもって行く必要はない。髪の毛の長い子はドライヤーが必要。

- ・アクティビティには参加したほうがいいと思います。早めに登録したほうがいいと思います。コミュニケーションは自分からどんどんとるべき。
- ・オーストラリアのすばらしい人達、景色にたくさん触れてください。
- ・自分から話しかければ、文法や単語が多少間違っている、相手は聞いてくれるし、応えてくれる。オーストラリア入国の際の審査は厳しいので、事前に注意事項や入国審査カードの書き方を知っていた方がいい。
- ・楽しみたいのであれば、友達と行っても良いが英語が本当にしゃべれるようにしたいならば、一人で行った方がいい。皆フレンドリー。
- ・はじめの2～3週間はまだ寒い日が多かったのでヒートテックなど暖かめの服を持って行くといい。英語に自信がなくても周りの人も配慮してくれるので、心配しなくても大丈夫だと思いました。
- ・日本にいる間にもっと英語力をつけておくべき。私はホストマザーの話を知っていることが多かったため、自分から積極的に話すべきだったと後悔している。身の周りのことをすべてやってもらうのではなくお手伝いもする。
- ・とても短い期間ではありますが、学べるもの、楽しめる事はたくさんあります。参加したら、自分から楽しみにいく事が大事だと思います。あと、私はもう少し“日本人”を捨てたかったです。
- ・英語の上達は別にしても、とにかくよい経験、思い出になります！5週間を長いと感じるかもしれませんが、実際に行ってみるとあっという間でした。最初から色々計画的にしたいことをすることがいいと思います。何でも自分から働きかけることが大切です！！
- ・留学に行くと良くするのも悪くするのも自分次第。遠慮を捨て、あらゆることに積極的になれる人が多く、そのものを手に入れ、充実した生活を送り、英語の力を伸ばすことがで

きる！

8. お礼の手紙について

出した：10人（ホストファミリー、友達）
出していない：0人

ソウル科学技術大学

【アンケート回収率】100% 回収者5人(参加者5人)

1. 先方の大学での研修について

- a. 履修した授業の内容（科目、授業の概要等）とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。
基礎韓国語文法、発音、読み書き、数字
3.8点
韓国音楽（K-POP、童謡）
4.6点
韓国映画
4.8点
- b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。
伝統衣装試着
4.8点
テコンドー
4.8点
伝統的な面の作成
4.8点
伝統楽器演奏
5.0点
韓国の歴史
5.0点
ナンタ（太鼓パフォーマンス）
5.0点
青瓦台（韓国大統領官邸）と朝鮮民族美術館見学
5.0点
- c. 先方の受け入れ体制について
 - ・生活面で世話をしてくれた人は誰ですか？どんなことをしてくれましたか？
Office of International Affairs のコーディネーターの Park Yoon-hye 先生, Wu May 先生, STISS のボランティアの方々（ソウル科技大生）やその友達（Kim Minchoel さん, Kim Deaknam

さん, Myung Geun Park さん, Kim Youngjae さん)

- ・寮の説明や、次の日の説明, Wi-Fi について
- ・放課後のスケジュール管理
- ・ソウル市内の案内
- ・韓国語の通訳
- ・空港までの迎え, 寮の説明, 部屋の使い方
- ・授業後や休日にいろいろな場所に連れていって来て, 買い物や観光を楽しめました。日本語も話せる方々だったのでとてもお世話になりました。

- ・勉強面で世話をしてくれた人は誰ですか? どんなことをしてくれましたか?
各授業の先生
- ・勉強は授業をしてくれる先生たちと私たちで行われたので, サポートというのとはなかったと思います。
- ・特になし。勉強面では困らなかった。
- ・韓国語や音楽, 映画の授業で多くのことを丁寧に教えていただきました。
- ・その他で頼りになる人, 世話をしてくれる人はいましたか? どんなことをしてくれましたか?
ボランティアの人たちやその友達 (Lee Gwangyeon さん, Kim Yeonjae さん, Kim Daeyun さん, Lee Sujin さん, Kwon Minji さん, Jun Junyong さん, サンミさん)
- ・16:00からのフリータイム (放課後) にいつも様々な所へ連れて行ってくれた。
- ・行きたい所へ連れて行って欲しかったり, おすすめの店を紹介してくれたりした。
- ・日本語が話せる人が2人いたので, よく相談にのってもらった。
- ・観光地でのお世話
- ・帰国の乗り継ぎのアドバイス

d. 留学期間について

適当 1人

長い 0人

短い 3人 (3 ~ 5週間が適当)

e. その他授業について困ったこと, 先方に対する要望等自由に記入してください。

(意見なし)

2. 寮について

a. 部屋にあった設備を記入してください。

エアコン, 2段ベッド, 机, 椅子, タンス, シャワー, トイレ, 洗面台, クローゼット, くつ入れ, テレビなし

b. 食事はどうしていましたか?

朝 学校の食堂 (時間が決められているが STISS 参加学生は無料), コンビニ, カフェテリア

昼 学校の食堂 (時間が決められているが STISS 参加学生は無料), コンビニ, カフェテリア

夜 ボランティアの方々と外食 (食堂の利用は可能)

c. 寮での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。

・洗濯物はベランダがないので部屋のなかでしか干すことができない。

・私たちは先輩から聞いてトイレトペーパーを日本から持っていったが, 寮にはトイレトペーパーが備え付けられていない。しかし, 学校の近くに買うところもある。

・ルームメイトがシャワー後に体を拭かずに部屋を歩きまわること。

・部屋で Wi-Fi が使えなかったこと。

・シャワーを使うと, しきりのカーテン等がないためトイレまで濡れてしまう。

d. 寮について良かったこと・悪かったこと, 要望など記入してください。

良かったこと

・洗濯機が使用できたことと, 飲み水を確保できたことが良かった。

・セキュリティがしっかりしていたため, 安心できた。

・女子は2人に1部屋であったが, 部屋の中はわりと広く, とても過ごしやすかった。またオートロックなので安心だと思う。

・自分の住んでいるアパートよりいいかも。

・きれいで, ちょうどいい広さで過ごしやすかった。

・クーラー完備でとても快適に過ごせました。

部屋の中も収納スペースが多く、ほどよい広さでした。また、洗濯機や乾燥機も安く使えてよかったです。

悪かったこと

- ・テレビは欲しかった。
- ・洗濯物は部屋の中に干すしかなく、ベランダなどあったらいいと思いました。

3. 生活全般について、トラブルがあればその対応も記入してください。

- ・乾燥機と洗濯機を間違えた。
→自己解決
- ・トラブル：携帯を無くした。
相談相手：日本人の友達、ボランティアの学生
対応：心当たりのある場所に電話をかけてくれた。大学から親に電話をかけさせてくれた。

4. 所要経費について（平均）

- ・支出総額 83,224 円
内 訳
参加費 38,854 円（航空費・宿舎費含む）
食費 12,800 円
保険料 9,970 円
その他 21,600 円
- ・参加費について
高い 0人 適当 1人 安い 3人

5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。

（学内の諸手続きについて）

- ・丁寧に説明していただけたのでありがたかった。
- ・前回参加した先輩方の話を聞けてためになった。
- ・とてもわかりやすく簡易的なものでした。

（出発前の事前研修について）

- ・出発前の事前研修では実際に参加した先輩から話を聞いたのでよかった。
- ・韓国語のクラスを設けて欲しかった。
- ・英語研修がとてもよかった。
- ・わたしはあまり出席できなかったのもっと

と参加していればよかったと後悔しました。

6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

- ・普通の観光ではできない、伝統楽器の体験や、テコンドーなどができて、とても貴重な経験になりました。そしてなにより、多くの友達を作ることができ、私の人生において宝ができました。しかし自分の英会話力の低さを実感したので今後頑張りたいと思いました。もちろん韓国語もです。次はもっと長く韓国に滞在したいと思います！
- ・今回のサマースクールは期間がとても短かった。生活にも慣れてきた頃に帰国だったので、もう少し期間が長ければいいなと思った。他の国からの参加者も多く、韓国人の方々だけでなく他の多くの国の方々と関わることができた。他の国々の方々とコミュニケーションは英語であったが、せっかく韓国に短期留学をしたのだから、もう少し韓国語を話す機会があってもいいと思った。英語においても韓国語においても自分の語学力の無さを改めて感じた。今回のサマースクールに参加したことによって、今までより語学に興味をわいたし、韓国に対する関心が高まった。そして、韓国人のボランティアの方々の中に日本語がとてもできる方がいて、その人は私たちよりも日本のことについて詳しい部分もあり、日本に関しても日本人はもっと知らないといけないと思った。
- ・楽しかった。とにかく楽しかった。海外に友達ができただけでとても嬉しい。
- ・今回、サマースクールに参加することができて本当によかったです。関わってくれたすべての方に感謝しています。2週間はあっという間でしたが、たくさんの友達を作ることができて、毎日がすごく楽しかったです。留学したいという気持ちがより強くなりました。
- ・最初は言葉の面や慣れない土地での生活の面で不安がありましたが、実際は留学生やボランティアの方々がとても優しくフレンドリーで毎日楽しく過ごせました。授業は韓国語においては基礎的なことから丁寧にやってくださり、ハンゲルが全くわからない人でもとて

もわかりやすい授業となっていました。音楽や映画においては韓国の文化を知ることができました。優しくおもしろい先生ばかりで毎回、真面目かつ和やかで楽しい雰囲気のもと授業をうけることができました。留学生のみならずと交流し笑いながら授業を受けられたのもとても楽しかったです。生活面においては毎日、授業後にみんなでいくつか行きたい場所を提案し、そこに行きたい人達とボランティアの方々と観光地やお買い物をしたり夕食を食べたりしました。いろいろな国のみなさんと話して文化なども知ることができ、仲良くなれて嬉しかったです。また、留学で知り合った日本人のみなとも交流できて楽しかったです。また、留学から帰ってきた今でも留学生のみなやボランティアの方々と連絡をとりあっており、友達がたくさん増えました！本当に今回 STISS の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。2 週間は本当にあつという間で、最後はとっても寂しかったです。絶対またみんなに会いたいし、留学にも行きたいと感じました。貴重な経験ができ、とても楽しい時間を過ごせました。

7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

- ・10日間というのはあつという間なので、1日1日を積極的に楽しむことが大切だと思います。けれど、体調が悪いときは自主的に休んで早く治すようにしたほうがいいと思います。
- ・授業料が無料だからといって軽い気持ちで参加しない方がいい。本当に短い期間であるが、たくさんのことを吸収できるので、とても良い体験になると思う。そしてなによりたくさん仲間を作ることができる。そして韓国の大学生のボランティアの方々も私たち参加者のためにとても考えてくれるし、時間を割いてくれるので、毎日がとても楽しい！
- ・留学するつもりで行くところではないです。とにかく初対面の友達と遊びまくるつもりで行きましょう。
- ・韓国のサマースクールでしたが、韓国語は授業以外ではほとんど使いませんでした。連絡

事項や説明などすべて英語ですし、日本人以外の留学生とコミュニケーションをとるためにも英語は本当に大切です。

- ・私は留学に行く前に少しハングルなど勉強しましたが、その土台があると授業もわかりやすく、理解もスムーズになると思います。また、留学生やボランティアの方々とは基本的には英語でコミュニケーションをとるので英語は絶対勉強しておいたほうがいいです。あとはハンガー類をたくさん持っていったほうがいいのと日本のお菓子やものなども持っていくといいかもしれません。

8. お礼の手紙について

出した 2人（ボランティアの方、大学の担当者）
出していない 3人

木浦大学

【アンケート回収率】100% 回収者4人(参加者4人)

1. 先方の大学での研修について

- a. 履修した授業の内容（科目、授業の概要等）とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。

Let's learn Korean 1～5（ハングル読み書き、挨拶・自己紹介・約束の場面の言葉）4点

→レベル別の授業が行われると聞いていたにもかかわらず、実行されなかった。

Taekwondo（外部講師による伝統武術披露・指導、木浦大学紹介）5点

Making Traditional Kite（外部講師による伝統凧作り指導）5点

The Art of Ceremonial Tea-making（外部講師による伝統茶道紹介、韓服試着）5点

Understanding Other Countries' Culture（参加学生による自国の紹介）5点

Making Korean Traditional Food（伝統料理の紹介・作り方指導・試食）5点

- b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。

Making Korean Pottery（伝統陶磁器の製作体験）5点

Natural Dying & Traditional Crafts（植物性染料による染め物体験，わら細工作り）5点

Canoeing & Watching Korean Traditional Music Show（カヌー体験，民謡・古典舞踊の見学）5点

Jindo Area（珍島散策・珍島犬見学・木浦自然史博物館見学）5点

Visit Korean National Museum（国立中央博物館見学）5点

Visit Kyeongbok Palace and Other Sightseeing Places（景福宮見学，ソウル観光）5点

c. 先方の受け入れ体制について

・生活面で世話をしてくれた人は誰ですか？（名前，分かれば役職も教えてください）

- ユ・ギョンヒさん（教授）
- チャン・ヒョクさん（契約教授）
- パク・テファンさん（学生スタッフ）
- キム・ソミさん（学生スタッフ）
- オ・ビョリさん（学生スタッフ）
- ユン・ミヒョンさん（学生スタッフ）
- ホン・イエスルさん（学生スタッフ）
- イ・ジュヒさん（学生スタッフ）
- チャン・スビンさん（学生スタッフ）

・その人はどんなことをしてくれましたか？ 何か問題がありましたか？

- ユ・ギョンヒさん
- スケジュール管理
- チャン・ヒョクさん
- 学生スタッフ指導・学生スタッフへのスケジュール伝達・引率・体調管理・記録
- 学生スタッフ
- 買い物付き添い・街の案内・参加者へのスケジュール伝達・記録

【問題点】

- ・集合時間，授業の開始時間などの決定が，いつも前日の晩だった。
- ・自由時間に街に出かけた際，学生スタッフが最終のバスを確認しておらず，大学から迎えを出してもらうことになってしまった。
- ・学生スタッフが突然自宅に帰ってしまうことが多々あった。
- ・学生スタッフが時間を守らない。

・ゴミ捨て場や生活用品の購入場所などを案内しない。

・勉強面で世話をしてくれた人は誰ですか？（名前，分かれば役職も教えてください）

- オ・チュンジンさん（教授）
- パク・ボクヒさん（教授）
- チャン・ヒョクさん（契約教授）
- パク・テファンさん（学生スタッフ）
- キム・ソミさん（学生スタッフ）
- オ・ビョリさん（学生スタッフ）
- ユン・ミヒョンさん（学生スタッフ）
- ホン・イエスルさん（学生スタッフ）
- イ・ジュヒさん（学生スタッフ）
- チャン・スビンさん（学生スタッフ）

・その人はどんなことをしてくれましたか？

- 何か問題がありましたか？
- オ・チュンジンさん（教授）
- Let's learn Korean 担当
- パク・ボクヒさん（教授）
- Making Korean Traditional Food 担当
- チャン・ヒョクさん（契約教授）
- 授業・アクティビティ時の引率，教授補佐
- 学生スタッフ
- Let's learn Korean の際の指導，アクティビティの際の通訳

【問題点】

- ・ Let's learn Korean がレベル別に行われなかった。
- ・ 授業の間に突然学長が訪問し，何度か授業が中断された。

d. 留学期間について

短い（3週間）

e. その他授業について困ったこと，先方に対する要望等自由に記入してください。

- ・ レベル別の語学学習プログラムの実施
- ・ スケジュールが過密。一つ一つのプログラムにもっと時間をかけたい。

2. 寮について 1部屋（約30㎡）

a. 部屋にあった設備を記入してください。

エアコン，ベッド，デスク，ロッカー，トイレ，シャワー，LAN

- b. 食事はどうしていましたか？
- ・ 寄宿舍の食堂
 - ・ 大学周辺の食堂
- c. 寮での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。
- ・ 男女同じ建物だったこと。
- d. 寮について良かったこと・悪かったこと、要望など記入してください。
- ・ 廊下でしか Wi-Fi がつながらなかったこと。
3. 生活全般について、トラブルがあればその対応も記入してください。
- トラブル：エアコンの故障
相談相手：学生スタッフ
対 応：なし
4. 所要経費について
- ・ 支出総額 80,000 円
 - 内 訳
 - 参加費 40,000 円（航空費・ 宿舎費含む）
 - 食 費 10,000 円
 - 保険料 10,000 円
 - その他 20,000 円
 - ・ 参加費について
 - 安い
5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。
- （学内の諸手続きについて）
- ・ インターネットで保険に加入することができ、手続きが楽だった。
6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。
- 今年は昨年の経験を生かし、積極的にプログラムに参加することができたと思います。私は昨年8月に同プログラムに参加して以来、「必ずもう一度参加する」と誓い、韓国語の勉強を続けてきました。長年の間、岐阜大学から木浦大学への短期留学派遣は行われていなかったため、十分な準備をせずプログラムに臨み、あらゆる場面で大変悔しい思いを

したからです。

特に Understanding Other Countries' Culture に関しては、渡航前に私達に対して「参加学生達が自国の文化を発表しなければならない」というアナウンスがされていなかったこともあり、6枚程度のスライドを、ただ原稿を読み上げるだけの大変情けない形で発表することとなってしまう、その後、自国の伝統衣装を着て、何十枚ものスライドや映像を使い、ジェスチャー等を交えながら発表した他国の学生達を目の当たりにしたことで、事前の準備ができなかった悔しさと日本人のプレゼン能力の低さを痛感しました。

そこで、今年は渡航1ヶ月前から20枚を超えるスライドを作成し、韓国語で作成した原稿を何度も練習して、浴衣を持参してプログラムに臨みました。「1年前と同じ後悔はしたくない」という思いから、発表前日は多少のプレッシャーも感じましたが、浴衣を着て壇上に立ったとき、他国の学生達がより一層大きな拍手や声援を送ってくれたことで気持ちに余裕ができ、ユーモアも交えながら日本の文化を紹介することができました。

プログラム中に何度も実感しましたが、海外からの日本や日本人の評価は「原子力発電所があって危険」「英語を話せない」「内向的」といったネガティブなもので、大学内でも「独島は私達の国だ。日本の製品の購入は控えよう」という横断幕が掲げられているなど、穏やかではない反日感情を目の当たりにすることもありました。そうした中、自らの手で日本を紹介できたことは大変貴重な経験でしたし、「政府から日本への旅行を控えるように言われている」と言っていたフランスの学生が、「日本語を勉強して日本へ遊びに行きたい」と言ってくれたときには、大変大きな喜びを味わうことができました。

こうしたかけがえのない体験をすることができたのは、太田先生や迫さん、その他大学職員の方々のご支援・ご指導があったからであり、心の底から感謝しております。本当に本当にありがとうございました。今後もサマースクールを通して、多くの学生が成長することを切に願っています。

7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

上記の通り、日本のイメージは決して良いものばかりではないということを自覚したうえで臨むこと

をお勧めします。しかしながら、それは日本に限らず他国においても言えることであり、文化の違いによってフラストレーションが生じたり、不快な思いをしたりすることがあっても当然であると思います。

異文化を全面的に受け入れることは大変難しいですし、そうする必要はないと思いますが、Understanding Other Countries' Cultureのような時間を大いに活用するため、ぜひともしっかりと事前の準備をしてほしいと思います。

8. お礼の手紙について

出した（親しくなった学生スタッフ）

編集後記

今年度の留学生センター担当のサマースクール（派遣）は、オーストラリアのグリフィス大学、韓国のソウル科学技術大学、木浦大学で実施した。一連の流れを記しておきたい。

まず、昨年より実施されるようになった「留学フェア」（4月24日）で、オーストラリア：シドニー大学、アメリカ：ノーザンケンタッキー大学（総合文化海外実習）、スウェーデン：ルンド大学（スプリングスクール）とともに、グリフィス大学、ソウル科学技術大学のサマースクールについて説明後、ブースに分かれて個別の質疑応答・相談等に対応した。「留学フェア」には80人の参加があり、守富国際戦略副本部長が司会、小見山国際本部長のあいさつによって始められるなど、2年目にしてようやく形態が整った感があった。

さらに4月17日、同24日の両日に、単独でグリフィス大学の説明会を実施した。ソウル科学技術大学は定員が3名だったため AIMS のみでの募集とし、木浦大学からは締切り1週間前によく通知が届いたので、緊急に募集をかけた。

円高が進んでいたためグリフィス大学への参加者が集まるかどうか懸念されたが、最終的に11名の参加があった。ソウル科学技術大学へは、応募者5名に順位を付けて送付したところ、全員受け入れてもらうことができた。昨年は8名の応募者中3名しか受け入れてもらえなかったが、5名程度なら受け入れてもらえるのではという感触を得ることができた。木浦大学へは、今年も1名参加することができた。本文でも明らかなように、一学生の熱意により参加が実現し、同校での「日本紹介」にも準備万端で臨み、実りある体験となったようだ。今年は学内の参加締め切りを2週間以上遅らせて5月下旬としたが、ゴールデンウィーク等を気にする必要もなく、何の支障も生じなかった。次年度も、この日程で進められるものと思っている。

参加決定後、6月17日～7月18日までの5週間、週3回（月曜日、水曜日、木曜日、1回2時間）計14回にわたって英語研修を実施した。今年は週当たりの回数を2回から3回に増やし、前期の試験期間を考慮して集中させたが、好評であった。講師はダニエル・エリクソン君（スウェーデン・ルンド大学からの交換留学生）、武田憲人君（教育学部英語教育4年、今年ルンド大学の留学から帰国、アメリカからの帰国子女）、松尾有美さん（教育学部生涯教育課程4年、11年度ソウル科技大留学）の3名であり、他にドレジャロヴァー・エヴァさん（チェコ・パラツキー大学からの日研生）も論文のリサーチを目的に協力してくれた。オーストラリアからの留学生の協力を得ることができなかったが、人材の確保が課題となっている。

7月17日には今年初めて外部から講師（海外留学生安全対策協議会の服部誠氏）を招いて全渡航者を対象に「危機管理オリエンテーション」を実施、出発に備えることができた。また、7月26日13:00より木浦大学、8月6日14:30よりグリフィス大学、16:30よりソウル科技大学の各参加者に対し、出発前オリエンテーションを行った。当日は前年度の参加者にも来てもらい、全般にわたるアドバイスを受けることができた。

各大学でのサマースクールの様子は本報告書に詳しいが、昨年同様、事前に出出したリーダー・副リーダーは、期間中の様子や帰国直後の連絡をほぼ失念してしまったようだ。しかし、今年は帰国後に参加者全員（1名を除く）からサマースクールの報告を聞くことができ、12月11日の留学報告会「私たちの留学の“真実”」でも、各グループが力を入った報告をしてくれた。本報告書の一部の記述には物足りないところもあるので、「留学の真実」で話したことを付け加えてほしいと思ったほどである。また、各サマースクールの様子を模造紙に貼ってもらったが、報告会終了後は留学生センターのラウンジに展示し多くの人に見てもらっている。

説明会から帰国まで、担当者の立場からは心配と驚きの多い数か月ではあったが、サマースクールで各自が得たもの、考え決意したことをこれからの生活の中で生かしてほしいと願うばかりである。そして今年も報告書のチェックには時間を割いたが、母国語である日本語での表現力、理解力の向上にも努めてもらいたいというのが本音である。

留学支援室の迫千尋氏、生協の佐々木英之氏、留学生センターの粥川美重子氏、英語研究の講師を引き受けてくれた4名の学生たち、説明会や交流会に参加してくれた前年度の参加学生たち、等々大勢の協力により今年のサマースクールを実施することができた。改めて感謝の意を表したい。

（留学生センター 太田孝子）

岐阜大学夏期短期留学

サマースクール2013報告書

〒501-1193	岐阜市柳戸 1-1
発行年月日	2013年12月
発行者	岐阜大学
電 話	058-293-3392
F A X	058-293-3491
印 刷	西濃印刷株式会社

